

108
52

文章添削方針

二編

河保友一郎著

文章添削方針

東京 合資 百山房書店

文章添削方針巻第三目次

句の正誤。

第一章。調和せざる句の誤。二

調和句の正例。二

所以をワケと讀みて混雜を防がむとの考。二

調和せざる句の誤の二。調和句の正例。六

イハムヤといふ詞及況の字の解。七

寧といふ字の解。七 調和句の練習。八

第二章。れのづら然る句の解。九

れのづから然る句の誤。九 正例。九

れのづから然る句の誤の二。十

正例。十一

練習。十一

河保友一郎著

文章添削方針

東京 言語学 百山房 普及
会社

文章添削方針巻第三目次

句の正誤。

第一章。調和せざる句の誤。二

調和句の正例。三

所以をワキと讀みて混雜を防がむとの考。二

調和せざる句の誤の二。三調和句の正例。四

イハムヤといふ詞及況の字の解。七

寧といふ字の解。五 調和句の練習。八

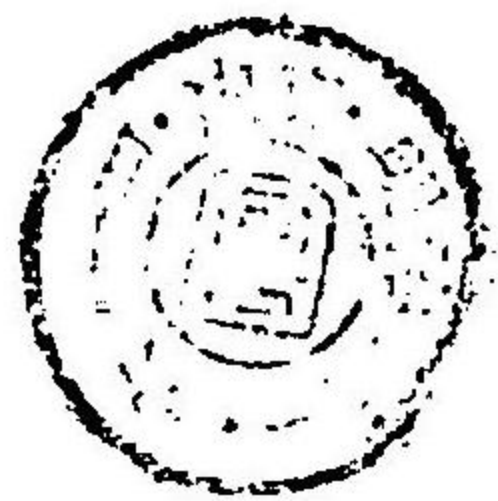
第二章。れのづあら然る句の解。九

れのづから然る句の誤。十 正例。十一

れのづから然る句の誤の二。十二

正例。十三

練習。十三



みづから然する詞にして、他動ならぬ作爲の活を
表す例。十二丁

他を然する句の誤。十二丁

他を然する句の解及作方。十三丁

他を然する句の正例。十三丁

他を然する句に他を然せさする詞を用る誤。十四丁

正例。十五丁

練習。十六丁

他に然する句の誤。十六丁

他に然する句の解及作方。十七丁

他に然する動詞の例。十七丁

他に然する句の練習。十八丁

ヲニを兼ぬる他動句(二の目的格を持つ句)の例。並

一 正誤。十八丁

他に然せさする句の解及作方。十九丁

他に然せさする句に二種ある説。上に同ト

他に然せさする句の誤。十九丁

正例。二十丁

練習。廿三丁

他に然せらるゝ句の誤。廿三丁

正例。廿四丁

他に然せらるゝ句の解及作方。廿四丁

「人ニ何々セラル」と書くべきを「人の何々スル所ト

爲ル」と書くとの非なる説。廿四丁

他に然せらるゝ句の練習。廿五丁

不當ある動詞にて自他を昧ます誤。廿五丁

正例。#六丁オ

練習。#六丁オ

自他主客混雜して方針明あらざる誤。#六丁オ

正例。#七丁

無益に轉旋して彼我の限界を昧ます誤。#八丁

正例。#八丁

おのづりら然せらるゝ句の解及作方。#九丁

自然せらるゝ句に自然に感動するものと作すと

の成るものとの二種ある説。#九丁

れのづから然せらるゝ句の正誤。#九丁

おのづりら然せらるゝ動詞の法則並に例。#九丁

文章添削方針卷三 目次 終る

文章添削方針卷三 目次

句の正誤。

第三章。過去句の正誤。二丁

未來句の正誤。二丁

現在句の正誤。二丁

議論句の正誤。二丁

過去句の正誤の二。三丁

現在句の正誤の二。三丁

未來句並に假設句の正誤の二。四丁

議論句の正誤の二。四丁

練習。五丁

新に生るものをば、固より存在する様を書く誤。六丁

正例。七丁

第四章。繼續句・解釋句の辨明。七丁

繼續句の誤。八丁

正例。八丁

確定の實事と確定の理論とを分ちむとの一説九丁オ
解釋句の誤十丁オ 正例十一丁

練習十二丁オ

第五章。反落句の解十二丁オ

反落句の誤十三丁オ 正例十三丁オ

反落句の誤に二様ある説十三丁オ
十四丁オ

並ホまガひある説十四丁オ かに(豈)の解十四丁

やホ十種ガの別ある説。及二種に約むべき考十五丁より
十八丁まで

何ホかどの疑の詞の下ホやを置くとの辨十八丁より
廿一丁まで

反落句の練習廿二丁オ 順落句の正誤廿二丁オ
廿三丁オ

順落句の練習廿三丁オ 反語明晰表廿三丁
廿四丁

第六章。逆接句・順接句の解廿四丁オ
廿五丁オ

逆接句の誤廿五丁オ 正例廿五丁オ

逆接句の複雑なる誤廿五丁オ 正例廿六丁オ

句勢に應じて形容の分量を加減すべき例廿六丁オ

順接句の誤廿六丁オ 正例廿六丁オ

逆接句・順接句の練習廿六丁オ
廿七丁オ

第七章。原因句・結果句・方便句・目的句の解廿七丁オ

原因句の正誤廿七丁オ 結果句の正誤廿七丁オ

方便句の正誤廿八丁オ 目的句の正誤廿八丁

法則廿八丁オ

原因句の誤の二廿九丁 正例廿九丁オ
三十丁オ

結果句の誤の二三十丁オ

結果句の誤ホ資料上と形質上との二様ある説卅丁

結果句の正例。註一丁ウ

方便句の誤の二。註二丁オ

目的句の誤の二。註三丁イ

原因結果に附きたる種々の誤。註四丁ウ

因果あるものを分けずして、一様に書き下す誤。

原因が結果を生ずる能なき誤。

句の係らざるより、因果の形状明あらざる誤。

原因句、結果句、方便句、目的句の練習。註五丁イ

正例。註三丁ウ

正例。註四丁ウ

文章添削方針卷廿四目次 終る

文章添削方針卷廿三

阿保友一郎 著

句の正誤。

第一章。

調和せざる誤。

句が調和せずとは、一句の中よて、句の係と結と調子が合ぬなり。首と尾と顧み應へぬなり。誤例左の如し。

- 是ノ故ニ、文字ノ必要ナル所以ナリ。
- 必學業ノ進歩速クアリトモ。
- 宜ナルカナ、芳名ヲ世ニ遺セリ。
- イハムヤ、大業ヲ成就スルヲ得ムヤ。
- 如何ニゾ、大業ヲ成就スルニ於テヤ。
- 知らズ、予輩

ガソノ任ニ堪ヘザラムトヲ。⑦唯恐ラクハ、予輩ガソノ任ニ堪フベシヤ否ヤ。⑧予是ヲ以テ、義勇ノ必要ナルトヲ知ルベキナリ。⑨思ハザリキ、恩徳ノ人心ニ感ズルト斯ノ如ク深キカ。⑩嗚呼、恩徳ノ人心ニ感ズルト斯マデ深カラムトハ。

正例。

●是ノ故ニ、文字ノ必用アリト云フ。●是文字ノ必用ナル所以ナリ。●必、學業ノ進歩速クアルベシ。●縦、學業ノ進歩速クアリトモ。●彼ハ、芳名ヲ世ニ遺セリ。●宜ナルカナ、芳名ヲ世ニ遺シシト。●イハムヤ、大業ヲ成就スルトニ於テヤ。●如何ニゾ、大業ヲ成就スルトヲ得ムヤ。●知ラズ、予輩ガソノ

任ニ堪フベシヤ否ヤ。⑦唯恐ラクハ、予輩ガソノ任ニ堪ヘザラムトヲ。⑧予是ヲ以テ、義勇ノ必用ナルトヲ知ル。⑨然レバ則、義勇ノ必用ナルト知ルベキナリ。⑩思ハザリキ、恩徳ノ人心ニ感ズルト斯マデ深カラムトハ。⑪嗚呼、恩徳ノ人心ニ感ズルト斯ノ如ク深キカ。

所以は、もとユエンと讀み、慣例なり。ユエンとは、ユエといふ辭に、ンを添へて音便ト呼びたるなり。一か、ユエ(故)の方は、コノユエ(是故)カ、ルガユエ(故)飲食スル故ニ、胃ガ張ル。一時ニ、事業ヲ成サムトスル故ニ、失敗ス。あはれと原因を受くる例なれど、ユエ(所以)の方は、飲食スルハ、是、胃ノ張ル所以ナリ。一時

ニ事業ヲ成サムトスルハ、是失敗スル所以ナリ。な
 と結果に附く。均しくユエと稱へあがら、一は原
 因に付き、一は結果に附く。委しくいふときは、この
 原因を指して、是デヤニヨツテ何々スルワケデヤ
 と顯證するとなれど、これ甚惑はしきとなり。この
 故に以後は、所以をば、ワケと讀み馴らして、ユエン
 ともユエとも讀まさぬとにせば、混雜を防ぐとの
 方便ともならむか。又一の便方ハ、以の字を除き、
 單に所の字のみを用るも宜し。所以所兩ながらワ
 ケと訓ずると、既に先覺者の説あるとあり。

誤例。その二。

① 聞ケ、訖聲カ山谷ニ返響シタリ。 ② 是所謂富貴安

逸ハ、才徳ヲ養フニ必用ナラズ。 ③ 今此ガ防禦ノ方
 法トハ何ゾヤ。 ④ 是ヲ以テ、僻地ノ小學兒童ヲ養成
 スルニ困難ヲ覺ユル所以ナリ。 ⑤ 予是ニ於テ、各自
 ノ分限ヲ量リ志望ヲ立ツル一肝要ナリ。豈慎マザル
 ベケムヤ。 ⑥ 古語ニモ、蓬麻ノ中ニアレバ扶ケスシ
 テ直シト、信ナルカナ。 ⑦ 況ヤ予輩卒業ノ後ハ、兒童
 ヲ教育スベキモノナリ。 ⑧ 況ヤ生徒ヲ薰陶セムト
 欲セバ、主トシテソノ信用ヲ得ザルベカラズ。 ⑨ 況
 ヤ導キ化シ難キモノ甚少クシテ、教訓ノ善惡ニ因リ
 テ善ニモ化シ惡ニモ徙ルモノハ、賢ニ枚擧スルニ違
 アラズ、世人盡皆然ルニ於テヲヤ。 ⑩ 問ハスシテ知
 ル、是勉ムベキニ勉メサリシ結果ナルノミ。 ⑪ 世ニ

ハ勉メズシテ富貴ヲ得ムトスルガ如シ。●予辨ヲ好ムニアラス、黙止スベカラズ。●此ハ何ニ起因スルゾ、教育ヲ受クルト受ケザルトニ在リ。●世人此ノ事ノ必用ナルヲ知リ而ノ身ニ行フ一難シ。●之ヲ例スルニ、貧家ニ生長スルモノハ、不幸ニ陥ルモ堪ヘザル一ナシ。●例ヘバ茲ニ甲乙ノ二人互ニ土地ノ所有權ヲ争ヒ官ニ訴フルモノアリトス。●若、深謀遠慮ナキキハ、其ノ事業ヲシテ空シク水泡ニ歸セシム。●予ガ希望スル所ノモノハ、今ヨリ勤勉刻苦シテ數年ノ後ニ至リ目的ノ成就セム一ヲ。●生等、今ヨリ誓ヒテ勉強シ、ソノ義務ヲ盡シテ此ノ盛譽ニ負カザラム一ヲ。●生等、荏苒トノ日ヲ費ス時ナ

ラムヤ。須ラク銳意ニ罷勉シテ以テ教員ニ適スル學術ヲ修メ、ソノ本務ヲ全カラシム一ヲ。●ソノ注意スル所細密ナラザルキハ、必要ナル事ト雖輕視シ、大切ナル事ト雖遺棄シテ、心中ニ留メズ。●之ヲ黒色ト爲シ之ヲ赤色ト爲スハ、一ニ之ヲ染ムル者ノ手ニアリ。之ヲ善良ト爲シ之ヲ邪惡ト爲スハ、一ニ之ヲ教フル者ノ行ニアリ。●然レバ智識ヲ得ムトスルニハ、精神ヲ鍊磨セザルベカラズ。精神ヲ鍊磨セムトスルニハ、自然ニ苦痛ヲ感ズ。●小學教師タルモノハ、學術ノ蘊奥ヲ究メムヨリハ、寧巧ニ生徒ニ教授スル方法ヲ研カザルベカラズ。●世人ノ毀譽ストテ、強二人ノ行ノ善惡ヲ定メ難シ。●現今心理學者ノ

説ク所ハ、智力ハ外界ノ經驗ヨリ生ジ、幼時ニハ殊ニ
觸覺上ノ經驗ニ因ルト云フヲ以テスレバ。④人學
バムト欲セバ、絶エズ勉強スルキハ、則課業ヲ卒フル
ニ至ルヘシ。⑤若、徒ニ時日ヲ消費シ長ジテ悔エト
モ已ニ及バズ。

正例。 ①の二。

①一發ノ砲聲ガ山谷ニ返響シタリ。②聞ケ、砲聲ガ
山谷ニ返響スルヲ。③是所謂富貴安逸ハ、才徳ヲ
養フニ必用ナラザルモノカ。④此ガ防禦ノ方法ヲ
求メムト欲スルキハ。⑤其ノ防禦ノ方法トハ、何ソ
ヤ。⑥是ヲ以テ、僻地ノ小學兒童ヲ養成スルニ困難
ヲ覺ユルナリ。⑦是、僻地ノ小學兒童ヲ養成スルニ

困難ヲ覺ユル所以ナリ。⑧予是ニ於テ、各自ノ分限
ヲ量リ志望ヲ立ツルノ肝要ナルヲ悟レリ。⑨
古語ニモ、蓬麻ノ中ニアレバ扶ケズシテ直シト云ヘ
ル、信ナルカナ。⑩古語ニ云ハク、蓬麻ノ中ニアレ
バ扶ケズシテ直シト、信ナルカナ。⑪况ヤ卒業ノ後
ニ兒童ヲ教育スベキ予輩ニ於テヤ。⑫况ヤ生徒
ヲ薰陶セムト欲スルニ於テヤ。主トソノ信用ヲ
得ザルベカラザル、知ルベシ。⑬凡、生徒ヲ薰陶セ
ムト欲スルキハ、主トシテソノ信用ヲ得ザルベカラ
ズ。⑭况ヤ導キ化シ難キモノ甚少キニ於テヤ。ソ
ノ教訓ノ善惡ニ因リテ、善ニモ化シ惡ニモ從ルモノ
ハ、實ニ教擧スルニ違アラザルベシ。⑮問ハズシテ

知ル、是、勉ムベキニ勉メザリシ結果ナルヲ。世
 ニハ勉メズシテ富貴ヲ得ムトスルガ如キモノアリ。
 ●予辯ヲ好ムニアラス、黙シ難ケレバナリ。此
 何ニ起因スルゾ、教育ヲ受クルト受ケザルトニ因ル
 ニアラズヤ。●世人此ノ事ノ必用ナルヲ知レド、身
 ニ行フモノ少シ。●之ヲ例スルニ、貧家ニ生長スル
 モノハ不幸ニ陥ルに堪ヘザルナキガ如シ。●例
 ヘバ、茲ニ甲乙ノ二人互ニ土地ノ所有權ヲ争ヒ官ニ
 訴フルモノアリトセヨ。●若、深謀遠慮ナカラムニ
 ハ、其ノ事業ヲシテ空シク水泡ニ歸セシムルニ至ラ
 ム。●希クハ、今ヨリ勤勉刻苦シテ、數年ノ後ニ至リ
 目的ノ成就セムヲ。●予ガ希望スル所ノモノハ、

數年ノ後目的ノ成就スルニアリ。●生等、今ヨリ誓
 ヒテ勉強シ、ソノ義務ヲ盡シテ此ノ盛譽ニ負カザラ
 ムヲ期ス。●生等荏苒トノ日ヲ費ス時ナラムヤ。
 須ラク銳意ニ罷勉シテ以テ教員ニ適スル學術ヲ修
 メ、ソノ本務ヲ全カラシムベキナリ。●ソノ注意ス
 ル所細密ナラザルキハ、必要ナル事ト雖輕視シ、大切
 ナル事ト雖遺棄シテ、心中ニ留メザルアルニ至ラ
 ム。●之ヲ黒色ト爲シ之ヲ赤色ト爲スハ、染ムル者
 ノ手ニアリ。之ヲ善良ト爲シ之ヲ邪惡ト爲スハ、教フ
 ル者ノ行ニアリ。●之ヲ黒色ト爲シ之ヲ赤色ト爲
 スハ、一二之ヲ染ムル者ノ手ニ任セザルベカラズ云
 々、と正すも可なり。●然レバ智識ヲ得ムトスルニ

ハ、精神ヲ鍊磨セザルベカラズ。精神ヲ鍊磨セムトスルニハ、自然ニ苦痛ヲ感セザルヲ得ス。●小學教師タルモノハ、學術ノ蘊奧ヲ究メムヨリハ、寧巧ニ生徒ニ教授スル方法ヲ研カムカ。●世人ノ毀譽ヲ以テ直ニ人ノ行ノ善惡ヲ定ムルハ難シ。●現今心理學者ノ説ク所ハ、智力ハ外界ノ經驗ヨリ生ジ、幼時ニハ殊ニ觸覺上ノ經驗ニ因ルト云フニアリ。サスレバ云々。●人學バムト欲セバ、絶エズ勉強スベシ。乃能ク課業ヲ卒フルニ至ラム。●若徒ニ時日ヲ消費セバ、長ジテ悔エトモ、亦何ゾ及バム。

イハムヤといふ詞は、云フニ及バズといふ意なり。たとへば、天スラ違ハズ、イハムヤ人ニ於テヤヤ。といふは、天スラ違ハズ、人ニ於ケルヲイハムヤ。といふべきを引き上げて言ひたるなり。この故にヤヤのヲにア行のオを書とい、由なきひがとありと、先師生川翁は、論されたり。又況の字義に就きて、岡白駒云はく、況の字、マシテと訓ず。一段かさをかけていふ意なり。またタトフと訓ず。サソヤと想像する意ありと。予按ふるに、況の字をマシテと讀むときは、ヲヤをヲイノウと俗譯して前後、つりやひを得て、解するを得むか。なほ後日述ぶるにあらむ。

寧は兩すちあるとに一方を擇びて落ち着とを在り。この故に今体文よては、常ヨヨリハといふ辭一對ひたり。イツソコレガマシといふ意。僧大典は寧

いふは、天スラ違ハズ、人ニ於ケルヲイハムヤ。といふべきを引き上げて言ひたるなり。この故にヤヤのヲにア行のオを書とい、由なきひがとありと、先師生川翁は、論されたり。又況の字義に就きて、岡白駒云はく、況の字、マシテと訓ず。一段かさをかけていふ意なり。またタトフと訓ず。サソヤと想像する意ありと。予按ふるに、況の字をマシテと讀むときは、ヲヤをヲイノウと俗譯して前後、つりやひを得て、解するを得むか。なほ後日述ぶるにあらむ。

寧は兩すちあるとに一方を擇びて落ち着とを在り。この故に今体文よては、常ヨヨリハといふ辭一對ひたり。イツソコレガマシといふ意。僧大典は寧

の字をベシと訓おたり。語原に就きては、むはーか
 爲さむと思ふ象。ーは、すぢを立て、れー定むる意。
 なむと先覺者(富樫廣蔭、堀秀成)の説あり。他にむー
 は、もーあり。ろは、つけ字なり。ねがふ詞なりと(貝原
 氏)の説もあれど、いかゞあらむ。後日考へむとす。

練習。

●是ヲ以テ、入學志願シタル所以ナリ。 ●是乃教育
 ハ貧乏ヲ除クト謂フモ、証言ニアラザルナリ。 ●是
 遂ニ失敗スルニ至レリ。 ●例へバ、今茲ニカ、ル精
 神ヲ以テ教授スル教師アリトスレバ。 ●継不幸ニ
 シテソノ迷夢長ク醒メザレバ。 ●古語ニ一日ノ計
 ハ早旦ニアリト。 ●宜ナルカナ。疑ハ智識ヲ得ル始

ナリト。 ●苦痛ハ、精神ヲ鍊ル大秘訣ナリト、宜ナル
 カナ。 ●况ヤ教師ト生徒トノ間ニ於テ親密ナル所
 アリ。 ●冀ハクハ、本案ニ同意スル一ニ吝ナル一ナ
 カルベシ。 ●唯憾ラクハ、資金ノ不足アリテ完成ノ
 域ニ至ラス。 ●彼ノ角倉了以ヲ見ヨ。カヲ盡シテ大
 堰富士二川ノ水理ヲ開ケリ。 ●嗚呼、恐懼ノ人心ニ
 感動ヲ與ヘ苦痛ヲ感セシムル一ノ大ナルヤ、夫此ノ
 如ク甚シキニ至ル。 ●人生ナガラニシテ賢ナルモ
 ノニアラス。皆効ヨリ苦痛ヲ嘗メ精神ヲ鍊磨スルニ
 由ル。此、猶刀劔ヲノ銳利ナラシムルニ淬礪ヲ以テス
 ルニアラザレバ、銳利トナラザルガゴトシ。 ●ソノ
 無用ニシテ卒ラムヨリハ、寧、學術事業ノ爲ニ心身ヲ

疲勞セシメテ世ヲ利益シ早世スルヲ、遙ニ勝レリ。

第二章。

おのづから然る句の誤。

おのづから然る句とは、おのづから然る詞の存在するゆゑあり。おのづから然るとは、おのづからさうあるととおのづからさうあるととの謂なり。自さうあるとは、自存在するとあり。製造高多キハ、なごの句の如し。自さうなるとい、自生り出づるとあり。製造高多クナルハ、なごの句の如し、兩方も所謂自然の方を述ぶるに用ゐる事あり。みづから然すとは、異あり。みづから然するは、わざと居る活あり。活を他に及ぼさぬゆゑに、他動と分つのみに

して。同トク作爲即わざとする事を。近來ある文法家は、おのづから然るとみづから然するを兼ねて自動と總稱するとあれど、これ自然と作爲とを同域に入れて混するから、精しき區分法にあらす。
●塵積リテ山ヲ爲ス。 ●植物ノ根ハ、土中ニ廣グ。
●生涯安樂ニ終フ。 ●品行方正ニシテ兒童ノ模範ト爲スベキモノナルベカラズ。 ●敢テ撓ムトナク、少シモ挫ク所ナシ。 ●信長射テ賊數人ヲ斃シ、弦絶ツ。 ●教通關白タリト雖、位ニ備フルノミ。 ●言路開キ賢才進ム。 ●言路塞ギ賢才退ク。 ●師タル者懇切ニ生徒ヲ教諭スレバ、ソノ徳性ヲ發育シテ淳良ノ人物ト成ルヲ必セリ。 同ジ。

およろ作爲の活を表せしは、その従ふ所の動詞作爲あらず。自然の活を表せしは、その従ふ所の動詞も自然ならざるべからず。然るに右に挙げたる十例は、自然の活をいふべきなるに、爲ス控ク開キ塞キ絶ツハ、四段廣グ終フ備フルは、下二段にして、いづれも作爲にて他を然せる詞なり。これ自然の活なるべき所に作爲を混トたるものにて乃誤れる義なり。

正例。

- 塵積リテ山ト成ル。
- 植物ノ根ハ土中ニ廣ル。
- 生涯安樂ニ終ル。
- 品行方正ニシテ兒童ノ模範トナルベキモノナカルベカラズ。
- 敢テ撓ムトナ

ク、少シモ控クル所ナシ。●信長射テ賊數人ヲ斃シ、茲絶ユ。●教通關白タリト雖、位ニ備ルノミ。●言路開ケ賢才進ム。●言路塞リ賢才退ク。●師タル者懇切ニ生徒ヲ教諭スレバ、生徒ノ徳性自發達シテ、淳良ノ人物ト成ルト必セリ。

成ルナル廣ル塞リ終ル備ルハ、四段ノ詞。開ケ絶ユ控クルハ、下二段の詞にして、皆おのづから然る詞なり。このゆゑに正しき。

誤例。その二。

- ソノ家治ムルトナシ。
- 桶ノ水漏リテ遺ス所半酌ニ過ギズ。
- 猶水ノ四角ナル器ニ入りテ方形ヲ爲スガゴトシ。
- 猶水ガ四角ナル器ニ入レバ、方ト

ナリ、圓形ノ器ニ移セバ、圓トナルガゴトシ。●自然ニ放任シテ邪路ニ進ムヲモ正サズ、惡習ニ染ムルヲモ矯メザルキハ。●少ノ金錢ニテモ漸次ニ積ミテ巨万ノ利益ニ至ルベシ。●夜來頻ニ窓ヲ敲ク音アリ、夢ヲ破リテ回想スレバ。●教師モシ怠惰ナルキハ、生徒タルモノ薰染シテ放蕩無賴ノ徒ヲ養成スルニ至ラム。●人ヲ車上ニ立タセテ急ニソノ車ヲ挽クキハ、躰ヲ後方ニ倒サムトスル傾ヲ生スルモノナリ。●ソノ製造スル所ノ物品ガ世間ニ便利ヲ爲スキハ、ソノ需用自多クセザルベカラズ。この十例も、おのつからさうあると、或はおのづからさうなるとの場に、わざとするとともに書く誤を

り。次の正例を視て悟るべし。

正例。その二。

●ソノ家治ルナシ。●桶ノ水漏リテ遺ル所半酌ニ過ギズ。●猶水ノ四角ナル器ニ入りテ方形トナルガゴトシ。●猶水ガ四角ナル器ニ入レバ、方トナリ、圓形ノ器ニ移レバ、圓トナルガゴトシ。●自然ニ放任シテ邪路ニ進ムヲモ正サズ、惡習ニ染ルヲモ矯メザルキハ。●少ノ金錢ニテモ漸次ニ積リテ巨万ノ利益ニ至ルベシ。●夜來頻ニ窓ヲ敲ク音アリ、夢醒メテ回想スレバ。●教師モシ怠惰ナルキハ、生徒タルモノ染リテ放蕩無賴ノ徒ト成ルニ至ラム。●人ヲ車上ニ立タセテ急ニソノ車ヲ挽クキハ、躰ガ

後方ニ倒レムトスル傾ノ生ズルモノナリ。●ソノ製造スル所ノ物品ガ世間ニ便利ヲ爲スキハ、ソノ需用自多クナラザルベカラズ。

漏リテは、四段にて、おのづから然る詞あるを、また漏レテと下二段にも活く。二ッあがらもちゐて宜し。

練習。

●冷エテ雲霧ト爲ス。●藝ナケレバ、生活ノ途絶ツ。●一日ハ、一秒ノ積リテナセルモノナレバ、一秒ヲ怠レバ、一日ヲ損ス。●多年勤勞シテ得タル所ノ福ハ、積ミテ山ヲ爲ス。●躰疲レ氣衰へ一歩モ進メ難ク、遂ニ地ヲ擇マズシテ路傍ニ休ム。●一タゼ困難ニ遇フキハ、忽之ニ折キテ。●或ハ寛ニ過ギ或ハ嚴ニ

傾クルヨリ生ズ。●外套ハ濕レテ脛ニ纏ヒ、靴ハ砂ヲ入レテ踵ヲ痛ム。●兒童ハ教師ノ行狀ニ感添シ易キモノナレバ、教師タルモノハ、宜シクソノ軌範ト爲スベキ行爲ナカルベカラズ。

○

みづから去かする詞にして他動ならぬ作爲の活を表すものは、余獨柴門ニ立ツ。彼ハ笑ヒテ語ル。なごの類なり。これは、わざとずる活にはあれど、その活が他に及ばざるなり。誤謬は見當らず。

他を然する句の誤。

●當村ノ人民ハ、學校ヲ建テリ。●書生ハ、業ヲ卒リ家ニ歸ル。●人、約束ヲ違フキハ、信用ヲ失フ。●水

夫過チテ身ヲ水底ニ沈ム^①アレド。 ⑤ 其ノ物、精良ナルニ因リ、外國人大ニ賞贊シ、遂ニ貿易上ノ一要品ト成ルニ至レリ。 ⑥ 不毛ノ地モ開キテ樹木ヲ植ウ。 ⑦ 一國ノ獨立ヲ維持シ、一國富強ノ基源スル所ノモノハ、何ゾヤ。 ⑧ 能ク人心ヲ協同シ、秩序ヲ維持シ、堅固ナル國家ヲ造リ、富強ノ根柢ト成ルナリ。 ⑨ 百般ノ制度秩然トノ整備シ、國家ノ威嚴ヲ保チ、國光ヲ四海ニ輝サムトスルニハ。 ⑩ 此ラノ機器ハ、人カヲ用ル^⑪ヲ減ジ、時間ヲ費ス^⑫ト少キモノナリ。 ⑬ 全生徒ハ、黑白ノ二隊ニ分レ、又各、三小隊ニ分ツ。 ⑭ 人、我カ身ヲ顧^⑮ス公益ノ爲ニ盡スキハ、世人ハツノ行爲ヲ尊敬シ、必、大徳ノ君子ト稱セラルベシ。

他を然すとは、此^コ方^{カタ}の動作が他人も一くは他物に涉りて之を左右するをいふ。この故に一よ之を奪格あるひに所役格ともいふ。凡て他を然する句には、主格の名詞と賓格の名詞(一名に目的格または補足言)とヲの後置辭と他を然する動詞とを具ふるものなり。然るに、卒^ソリ^リ、違^チフ^フ、(違^チフ^フキとあるゆゑに)沈ム^シ、成ル^ルは、四段にしておのづから然る詞なり。建テリ^テは、もと々行四段の自動詞なるを、ありと合ひて、アリ^リノ合成となれるものなれば、なほ自動なる詞なり。①は、ヲの後置辭を遺^スせり。②以下は、前後の句一致せず、自他混するゆゑに誤るなり。③は、他動を受動に爲^スたるゆゑに誤るなり。

正例。

● 當村ノ人民ハ、學校ヲ建テタリ。 ● 書生ハ、業ヲ卒
 ヘテ家ニ歸ル。 ● 人、約束ヲ違フルキハ、信ヲ失フ。
 ● 水夫過チテ身ヲ水底ニ沈ムルアレド。 ● 其ノ
 物精良ナルニ因リ、外國人大ニ賞贊シ、遂ニ貿易上ノ
 一要品ト爲スニ至レリ。 ● 其ノ物精良ナルニ因リ、
 外國人ノ賞贊ヲ得テ、遂ニ貿易上ノ一要品ト成ルニ
 至レリ。 ● 不毛ノ地ヲモ開キテ樹木ヲ植ウ。 ● 一
 國ノ獨立ヲ維持シ、一國ノ富強ヲ保有スル所ノモノ
 ハ、何ソヤ。(或は保有を増進ト作る) ● 能ク人心ヲ協
 同シ、秩序ヲ維持シ、富強ノ根柢ヲ立テテ、堅固ナル國
 家ヲ造ルベキナリ。 ● 百般ノ制度ヲ整へ、國家ノ威

嚴ヲ保チ、國光ヲ四方ニ輝カサムトスルニハ。 ● 此ラ
 ノ機器ハ、人カヲ減ジ、時間ヲ省クモノナリ。 ● 全生
 徒ヲハ黑白ノ二隊ニ分チ、又各之ヲ三小隊ニ分ツ。
 ● 人、我カ身ヲ顧、ス公益ノ爲ニ盡スルハ、世人ハ、ソノ
 行爲ヲ尊敬シ、必大徳ノ君子ト稱スルニ至ラム。
 右の句中、建テ、卒へ、違フル、沈ムルは、下二段にして
 他を然する詞なり。爲す、省ク、分チは、四段にして他
 を然する詞なり。○此方コノカタの活カが彼方カノカタに及ぶといふ
 とをば、人民ハ學校ヲ建ツといふ句にて論さば、人
 民の活カが學校に及ぶといふとをば、乃人民といふ
 主格の名詞と學校といふ賓格の名詞と建ツとい
 ふ他を然する動詞とヲの後置辭とを具ふるなり。

練習。

● 立テテ主ト爲ル。 ● 機關ノ運轉ヲ鈍ル。 ● 松柏ヲ培養シテ建築ノ良材ト成ルガ如シ。 ● 瘠土ハ、草ノ根ヲ自由ニ蔓ルル能ハズ。 ● 我ガ假設隊ハ、分チテ三分隊トス。 ● 學問ハ、實業ノ基礎ト爲リ、公益ヲ興スルヲ以テ目的トセザルベカラズ。 ● 温泉ハ、寛ヲ以テ之ヲ延クテ數百尺ニシテ、溪ヲ亘シテ来タリ湯槽ニ入ル。

他を然する句に他を然せさする詞を用る誤

● 風雨窓ヲ打チテ夜眠ヲ醒サシム。 ● 暴飲過食シテ腸胃ヲ損ゼシム。 ● 神州ノ兵威ヲシテ宇内ニ輝スニ至ル。 ● 苟モ國家ヲシテ泰山ノ安キニ置カム

ト欲スル志アラバ。 ● 假令諸ノ學問ヲシテ之ヲ學ビ習フト雖。 ● 教師ニシテ氣力弱ナラシムレバ、從ヒテ兒童ノ氣力モ弱トナル。 ● 徒ニ兒童ノ思考ヲ惱マシムルノミニシテ、終ニ兒童ヲシテ能文ノ士トナラシムルル能ハズ。 ● 鶏ハ、終年時ヲ違ヘズ、吾人ヲシテ寢所ヨリ出ヅルルヲ促スヲ以テ技能トセリ。 ● 人ハ、四肢ヲ具ヘ自由ニ運動セシムルルヲ得ルノミナラズ。 ● ソノ教授スル所ノ事、兒童ノ腦裡ニ感徹スルニアラザレバ、ソノ教授スル所ノ事ヲシテ水泡ニ歸セシムルニ至ラム。

正例。

● 風雨窓ヲ打チテ夜眠ヲ醒ス。 ● 暴飲過食シテ腸

胃ヲ損ス。 ④ 神州ノ兵威ヲ宇内ニ耀スニ至ル。 ⑤ 苟モ國家ヲ泰山ノ安キニ置カムト欲スル志アラバ。 ⑥ 假令諸ノ學問ヲ學ビ習フト雖。 ⑦ 教師ニシテ氣力弱ナレバ從ヒテ兒童ノ氣力モ弱トナル。 ⑧ 徒ニ兒童ノ思考ヲ惱スノミニシテ終ニ兒童ヲシテ能文ノ士トナラシムルヲ能ハズ。 ⑨ 鷄ハ、終年時ヲ違ヘズ、吾人ノ晨起ヲ促スヲ以テ技能トセリ。 ⑩ 人ハ、四肢ヲ具ヘ自由ニ運動スルコトヲ得ルノミナラズ。 ⑪ ソノ教授スル所ノ事、兒童ノ腦裡ニ感徹スルニアラザレバ、ソノ教授スル所ノ事、空シク水泡ニ歸スルニ至ラム。

練習。

① 人巧ニ辯舌ヲ弄スルキハ、或ハ一時他人ヲ瞞着セシムルヲ得ベキモ、終ニハ云々。 ② 人、幼キ時ヨリ學校ニ入ラシメ、學術ヲ研究セシムルキハ、成長ノ後ニ才智ヲ開キ、有用ノ人物ト成ラシムルヲ得ベシ。 ③ 天下ヲシテ平安ニ維持セシムル諸寮百官モ云々。 ④ 弄スルと三段格に活動せさせると、今躰文に始りしにあらす。古くより物語類に見えたり。

他に然する句の誤。

● 婦人ハ、幼兒ノ教養方ヲ注意セヨ。 ① 幼少ヨリ善キ事ヲ馴レテ云々。 ② 人ヲ委任ス。 ③ 會議ヲ參與ス。 ④ 戦々競々トノ深淵ヲ臨ムガ如シ。 ⑤ 寒氣凛烈トノ人ノ肌骨ヲ砒ス。 ⑥ 時ノ不遇ニ遭ヒ、劒ヲ

伏シテ顧ズ。これはある小學讀本に寺院が蘇武に答へし書に譯して出まゝ中にあり。 ⑧ 道ヲ違フキハ、悔多シ。

⑨ 懦弱ナル兵士ヲシテ征伐ノ任ヲ以テスルガ如シ。
⑩ 學校ニ躰操ノ科ヲ設ケ、生徒ヲシテ起立節制ノ習慣ヲ與へ、四肢筋骨ヲ運動セシム。
⑪ 兒童ヲシテ讀書ノ能力ヲ得シムルハ、恰モ是智識ノ充滿セル倉庫ノ鍵ヲ與フルガ如シ。

正例。

① 婦人ハ、幼兒ノ教養方ニ注意セヨ。
② 幼少ヨリ善キ事ニ馴レテ云々。
③ 人ニ委任ス。
④ 會議ニ參與ス。
⑤ 戰々兢々トノ深淵ニ臨ムガ如シ。
⑥ 寒氣凜烈トノ人ノ肌骨ニ砭ス。
⑦ 時ノ不遇ニ遭ヒ、劍ニ伏シテ顧ズ。
⑧ 道ニ違フキハ、悔多シ。
⑨ 懦弱ナル兵

士ニ征伐ノ任ヲ委ヌルガ如シ。
⑩ 學校ニ躰操ノ科ヲ設ケ、生徒ニ起立節制ノ習慣ヲ與へ、四肢筋骨ヲ運動セシム。
⑪ 兒童ニ讀書ノ能力ヲ授クルハ、恰モ是智識ノ充滿セル倉庫ノ鍵ヲ與フルガ如シ。

他に然する句とは、此方が彼方に致すをいふ。此方が彼方よりあひ對ふをいふ。此方が彼方より致すをいふ。此方にて、此方の活の落ちつく場所を示し、此方が彼方に對ふよりして、此方を彼方に比ふる意をも有つ。古人は、之を與格ともいへり。凡て他は然する句は、主格の名詞と賓格の名詞と二の後置辭と他に然する動詞とを具ふるものなり。右に擧ぐる例にて、①より⑧までは、後置辭のニをヲに誤り、⑨より

① までは、ニをヲシテに誤り、他に然する句に他に然せざる詞を混ざるゆゑ、正したるあり。いづれも動詞と後置辭と一致せざるより生ずるものなりとす。さて他に然する動詞とは、君ニ仕^カフ。委員ニ任^カス。人ニ聞^カス。他ニ見スル^ト。親族ニ預^カク。生徒ニ授^ク。長者ニ比^ブ。子供ニ着^カスル衣。以上は下二段の活詞)遠方ニ遣^ハス。友ニ貸^ス。村民ニ諭^ス。門第ニ示^ス。臣下ニ賜^フ。道ニ從^フ。期ニ違^フ。人ニ達^フ。人人ニ傳^フ。師ニ問^フ。不虞ニ備^フ。天ニ連^ル。岩ニ通^ル。父母ニ離^ル。里ニ遠^ザカル。家ニ近^ツク。(以上も四段の活詞)親ニ似^ル。(一段の活詞)などの類なり。これらは、凡てニの後置辭に伴ふものなり。以上の二十五例には、たゞ動詞を示すためとのみ思ひ、主格あるものは賓格を略せり、讀むものごとく添ふと

れな

練習。

- 能ク古ヲ鑑^ルル。
- 此ヲ以テ被^テ比^ス。
- 能ク製作スル所ノ器物ヲ留意ス。
- 艱難之ヲ屈スル^トナシ。
- 頗^クソノ業ヲ熱心ス。
- 下級生ハ上級生ヲ準ジテ斟酌スベシ。
- 穴ノ周圍一丈ヲ越^エ、全面石灰質ヨリ成^ル。

ヲニを兼ぬる他動句の例。ならびに正誤。

他動句の中に、ニの後置辭、ニの賓格の名詞を兼ね具ふる句あり。これは、一句にして宛も他を然する句と他に然する句とを兼ぬるものなり。英文典あるに、ニの目的格を持つ動詞とあるものと同ト。そ

の例。

●書生ハ、書籍ヲ朋友ニ貸ス。 ●官吏ハ、趣意ヲ人民ニ諭ス。 ●君ハ、賞ヲ臣下ニ賜フ。 ●教師ハ、業ヲ生徒ニ授ク。 ●主人ハ、金子ヲ番頭ニ預ク。 ●訴訟人ハ、代理權ヲ委員ニ任ス。

誤例。

●植物ハ、ソノ根ヲ土中ニ廣ル。 ●小學教師ハ、兒童ヲシテ庶物ノ觀念ヲ與ヘ云々。

正例。

●植物ハ、ソノ根ヲ土中ニ廣グ。 ●小學教師ハ、兒童ニ庶物ノ觀念ヲ與ヘ云々。 ●は、動詞を誤り、●は、後置辭を誤るなり。

他に然せさする句の誤。

他不然せさする句と名づくるとは、必、他に然せさする詞を有つゆゑなり。他に然せさすとい、他に然せしむる謂なり。一名に使動ともまた役動ともいふ。すなはち甲が乙をして乙みづからに作動せしめ、(一種)。或は、甲が乙をして丙を左右せしむるをいふ。(二種)。例へば、風俗習慣ハ、人ヲシテ賢ト爲リ愚ト爲ラシム。といふが如きは、甲が乙をして乙自に作動せしむるものなり。父兄ハ、子弟ヲシテ學術ヲ研究セシム。といふが如きは、甲が乙をして丙を左右せしむるものなり。委しくは、正例の次に述べむ。

●慈愛ナル父兄ハ、子弟ヲシテ學術ヲ研究ス。 ●風

俗習慣ハ、人ヲシテ賢ト爲シ愚ト爲サシム。 ③ 邦國ヲシテ隆盛ノ域ニ進メシムベシ。 ④ 教師ハ、兒童ニ學カヲ與ヘ、智識ヲ開キ、ソノ成長スルニ及ビテ國益ヲ謀ルハ。 ⑤ 小學校ニ於テ兒童ヲ教フル目的ハ、兒童ガ後來完全ナル國民ノ資格ヲ具ヘ、社會ニ生存スルニ必要ナル智識ヲ有タシムカ爲ナリ。 ⑥ 父母ソノ子ヲ學校ニ入りテ教育ヲ受ケシム。 ⑦ 若シ教師ヲシテ慈愛ノ情ニ富ム所ノ人トスレバ云々。 ⑧ 世ノ父母ヲ觀ルニ、姑息ノ愛ヲ以テソノ子ヲシテ學校ニ入レズ、又嚴師ニ就キテ業ヲ治ムルヲ厭ヒテ學バシメザルモノアリ。 ⑨ 幼童ヲ善道ニ導カムト欲セバ、如何シテ可ナル。曰ハク、學校ニ入り善良ナル

教育ヲ受ケズバ、何ヲ以テカ善道ニ導クヲ得ム。 ⑩ 是ヲ以テ連戰連捷シ、彼遂ニ和ヲ乞ヒ土地ヲ割カシメ償金ヲ納メシム。 ⑪ 近來世ノ文明ニ進ムニ及ビテハ、女子ニモ一個ノ權利ヲ與ヘ、女子タル義務ヲ盡サザルベカラザルヲ知ルニ至レリ。 ⑫ 讀書科ニテハ、章句ト思想トヲ與ヘ、作文科ニテハ、思想ヲ文章ニ表サシムルニアレバ、讀書ト作文トハ、ソノ程度ヲ同ジクシテ進マザルベカラズ。

正例。

- ① 慈愛ナル父兄ハ、子弟ヲシテ學術ヲ研究セシム。
- ② 風俗習慣ハ、人ヲシテ賢ト爲リ愚ト爲ラシム。(風俗習慣は、自然に云々の意)。
- ③ 邦國ヲシテ隆盛ノ域ニ

進マシムベシ。④教師ハ、兒童ニ學カヲ與ヘ智識ヲ開キ、ソノ成長スルニ及ビテ國益ヲ謀ラシムルハ。⑤小學校ニ於テ兒童ヲ教フル目的ハ、兒童ヲシテ後來完全ナル國民ノ資格ヲ具ヘ、社會ニ生存スルニ必要ナル智識ヲ有タシメムト爲ルニアリ。⑥父母ソノ子ヲシテ學校ニ入りテ教育ヲ受ケシム。⑦父母ソノ子ヲ學校ニ入レテ(其ヲシテ)教育ヲ受ケシム。特級内は略しててもよし。⑧若シ教師ヲシテ慈愛ノ情ニ富ム所ノ人ナラシメバ。⑨世ノ父母ヲ觀ルニ、姑息ノ愛ヲ以テソノ子ヲ學校ニモ入レズ、又嚴師ニ就ケテ業ヲ治メシムルヲモ厭フモノアリ。⑩幼童ヲ善道ニ導カムト欲セバ、如何シテ可ナル。曰ハク、之ヲ學校ニ入レ善良ナル教

育ヲ受ケシムルニアリ。⑪是ヲ以テ連戰連捷シ、彼ヲシテ遂ニ和ヲ乞ヒ土地ヲ割キ償金ヲ納メシム。⑫近來世ノ文明ニ進ムニ及ビテハ、女子ニモ一個ノ權利ヲ與ヘテ、女子タル義務ヲ盡スベキヲ知ラサザルベカラザルニ至レリ。⑬讀書科ニテハ、章句ト思想トヲ與ヘ、作文科ニテハ、思想ヲ文章ニ表サシムルニアレバ、讀書ト作文トハ、ソノ程度ヲ同ジクシテ進マシメザルベカラズ。⑭前の十九枚に述べたる甲が乙をして乙自に作動せしむといふと、乃「風俗習慣ハ、人ヲシテ賢ト爲リ愚ト爲ラシム」といふ句に就きて之を論さば、風俗習慣ハ、甲なり。人は、乙なり。賢ト爲リ愚ト爲ラシム

とは、乙を以てみづから動作せしむるとなり。又

慈親ハ、(甲)幼童(乙)ヲシテ學校ニ入ラシム。(みづから作)

早魁ハ、(乙)草木(乙)ヲシテ枯レ萎マシム。(乙)

と書くも同トき理にして、うの乙みづからに作動せしむとある所の作動は、自動詞ならざるべからず。この故に賢ト爲リ愚ト爲ラシム。學校ニ入ラシム。枯レ萎マシム。なごの爲リ、爲ラ入ラ、枯レ萎マは、みな自動詞なり。又甲が乙を以て丙を左右せしむといふと乃父兄ハ、子弟ヲシテ學術ヲ研究セシムといふ句に就きて之を論さば、父兄は、甲あり。子弟は、乙なり。學術ハ、丙なり。研究セシムとは、即左右せしむるが如きなり。今又解し易からむ爲に、

老翁ハ、(甲)牧童(乙)ヲシテ牛(丙)ヲ逐ハシム。(左右せ)

頼朝ハ、(甲)義經行家(乙)ヲシテ平氏(丙)ヲ追討セシム。(乙)

主人ハ、(甲)下僕(乙)ヲシテ障子(丙)ヲ貼ラシム。(乙)

といふ句を以て之を論すも同理ありて、障子は、器物。學術は、無形物なれど、牛、平氏に異ならず。均しく丙に當るものあり。一かして、その丙を左右せしむとある所の作動は、他動詞ならざるべからず。このゆゑに、研究セシム。逐ハシム。追討セシム。貼ラシム。あごの研究セ、逐ハ、追討セ、貼ラは、みな他動詞たるなり。又他は然せさする辭(テ)に就きては、
主人ハ、僕ヲシテ庭ヲ掃除セシム。

主人ハ、僕ニ庭ヲ掃除セサス。

主人ハ、僕ニ庭ヲ掃カス。

父兄ハ、子弟ヲシテ教育ヲ受ケシム。

父兄ハ、子弟ニ教育ヲ受ケサス。

いづれを書くとも通ず。その法則ならびに活様の圖は、卷の二、一二丁に出せり。○某生問ひて曰はく、慈親ハ、幼童ヲシテ勉メ學バシム。といふ句は、誤なりやいなや。も一誤らずとせば、勉メ學ブといふ他動詞を用るは何ぞ。第一種の法則に背くにあらずや。曰はく、これは、第一種にあらず。第二種の略式あり。文藝ヲ勉メ學バシム。などと書くべきを。文藝ヲの三字が省かれたるなり。これらの變通をも知ら

ざるべからずと答ふ。

練習。

●教師ハ、已カ行爲ヲシテ兒童ノ標準トナルベキナリ。●少年ノ目的ヲ成就セシム爲ニハ、必要ナル知識ヲ與ヘテ、必要ナル腦力ヲ鍊磨スルヲ肝要ナリ。

●英國ノ人民ハ、工業ノ及バザルヲ悟リテ大ニ改良シ、未數十年ヲ經ザルニ、世界ノ品評者ニ先指ヲ英國ニ樓ムルニ至レリ。●縦倉庫ヲシテ多ク貨物ヲ藏メシムトモ、之ヲ開ク所ノ鍵ナクバ、何ゾ貨物ヲ出スヲ得ムヤ。●是兒童ヲシテ種々ノ觀念ヲ與ヘ才智ヲ磨カシムル所ノ用具ナリ。●試業ハ、生徒カ日、日學ビタル所ノ學科ノ問ニ答ヘシメテ、ソノ成績

ヲ知ルヘキ方法ナリ。●人ヲシテ賢ト爲シ鈍ト爲シ愚ト爲シ鈍ト爲シサザラシムムニハ、夙ニ教育ヲ施スニアリ。●馬ノ無學ノ輩ソノ途ニ當リ外國ノ商人ヲ壓倒スルトヲ得ム。

他に然せらるゝ句の誤。

●信ヲ亡フ人ハ、世間ニ齒セザルニ至ラム。●世人ニ賤マレ斥ケラレ、遂ニ與ニ交際スルヲ能ハザルニ至ルベシ。●月カ瀬ノ梅花ハ、世人ニ賞贊スルモ歌人月の瀬と稱す。いま通俗の稱に従ふ。●角倉了以ハ、水運ヲ通ジテ一世ニ便シ、今ニ至ルマデ其ノ徳ヲ稱ス。●是、現今實業教育ノ噴々トノ世上ニ贊稱スル所以ナリ。●人ノ推舉スル所ト爲ル。

これハ、他に然せらるゝ句の誤なり。他に然せらるる句は、一名に受動句ともいふ。他に然する句に反對して、我が他の活動を受くるものなり。他に然せせらるゝ句には、常に他に然せらるる詞を用るべき定なり。

正例。

●信ヲ亡フ人ハ、世間ニ齒セラレザルニ至ラム。●世人ニ賤マレ斥ケラレ、遂ニ交際セラレザルニ至ルベシ。●月カ瀬ノ梅花ハ、世人ニ賞贊セラル。●角倉了以ハ、水運ヲ通ジテ一世ニ便シ、今ニ至ルマデ其ノ徳ヲ稱セラル。●是、現今實業教育ノ噴々トノ世上ニ贊稱セラル、所以ナリ。●人ニ推舉セラル。

讀む人の中には、齒セラレズトあるに受動句と名づくるはいかゞと疑ふ方もあらむ。さるときには、信ヲ守ル人ハ、世間ニ齒セラル、ニ至ラム。と否定を肯定ニ改め見ば、そのよはひせらるるとせられざるとの別ありとも均しく受動句中のものあることを悟るに至らむ。その他もこれに準へてよ。

●は、漢文直譯の誤なり。これ最初に漢文を作る便利のみを考へて、國語の性質を顧ざるより生じた餘弊なり。「言フ」勿レを「言フ勿レ」と書くも同様の起りなり。國學家は、いふもさらなり。漢學家にても精密なる學者は、いかにせざるなり。大典禪師の説に、爲人所推許爲人之所推許爲人推許と讀むべきを

爲某之所推許と讀む人多し謬なり。これは、見推舉於某といふ意に同トきことを知らざるゆゑなりと云へりき。昭和の頃。凡今より百廿六年前。また土井聲牙翁は、漢文の大家なり。いかゞ、通鑑の會讀を心に毎に、何々セラルとばかり讀みたまひき。これ予が往昔親炙していまに耳底に残りたるものなり。

練習。

●人ノ行斯ノ如クナルキハ、世ニ稱シテ智者ノ名ヲ得ルニ至ラム。 ●怠惰ニシテ恥ヲ知ラヌ人ハ、世ニ容レザルニ至ラム。

不當なる動詞にて自他を味ます誤。

●身体ヲ健全ニセム爲ニ、或ハ榮養分ヲ供へ、或ハ閑

雅ノ地ニ散歩ヲ試ル。①生徒ハ、教師ノ徳性ニ薰ジ
 善良ノ習慣ヲ養ヒ。②人、他人ニ對シテ穢ニソノ愚
 ヲ責ムルコトアラバ、他人ハ必憤怒シテ此ガ爲ニ大ナ
 ル害ヲ被ルコトアラム。③或ル植物ノ根ハ、蔓延シテ
 深ク地中ニ入りテ水分ヲ供給スルヲ以テ早害ヲ免
 ル。④酸素ハ動物ガ之ヲ吸ヒテ肺ニ至ルキハ、体内
 ノ不潔ナル血液ニ混ジ炭素ト化合シテ炭酸トナル
 ナリ。

正例。

●身體ヲ健全ニセム爲ニ、或ハ榮養分ヲ用、或ハ閑雅
 ノ地ニ散歩ヲ試ル。●生徒ハ、教師ノ徳性ニ薰ジ善
 良ナル習慣ヲ受ケ。●人、他人ニ對シテ穢ニソノ愚

ヲ責ムルコトアラバ、他人ハ此ニ因リテ必憤怒シテ大
 ナル害ヲ加フルコトアラム。④或ル植物ノ根ハ、蔓延
 シテ深ク地中ニ入りテ水分ヲ吸ヒ取ルヲ以テ早害
 ヲ免ル。⑤酸素ガ動物ニ吸ハレテ肺ニ送ラル、キ
 ハ、体内ノ炭素ト化合シテ炭酸トナルナリ。⑥動物
 ガ酸素ヲ吸ヒテ肺ニ致スキハ、ソノ酸素ハ体内ノ炭
 素ト化合シテ炭酸トナルナリ。

④の供給といふ詞にて、此より彼は供へ與ふる
 意おなる。この所にて、植物が自取る方にならざ
 るべからず。⑤の至ルは、自ゆくなり。この所にて、
 動物が酸素をいたすことにせざるべからず。

練習。

● 手指ノ鍊磨十分ナルキハ、日常ノ事業ニ就キテモ大ナル便利ヲ與フルモノナリ。 ● 手指ヲ鍊磨スルハ、人ノ生涯ニ於テソノ益ヲ與フル一極、テ廣シ。

自他主客混雜して方針明ならざる誤。

● 人、妄語スルキハ、是、唯ソノ人ノ品位ヲ落スノミナラス、人モ亦之ヲ厭忌シ、遂ニ擯斥セラレ交際ヲ絶チ、ソノ困難ヲ見ルトモ顧ザルニ至ラム。 ● 政府ハ、我ラノ人民ノ内ニテ徳望學識兼ネ備リタル人物ヲ擇ミテ、我ラニ代リテ、種々ノ取扱ヲ委ネシ人ヲ集メタル所ナリ。 ● 冀ハクハ、自今益奮勉シテ教育ノ清波ニ棹サシ、縣下ノ幼童ヲシテ文明ノ良港ニ導カムトヲ。 ● 追手、吶喊シテ三方ヨリ徐々ニ進メバ、兎ハ、狼

狼シ遁逃スレバ、網ハ、之ヲ一方ニ要シテ、竟ニ獵夫ニ捕ヘラル。 ● 地球ノ引力ガ物躰ノ分子ヲ牽キテ地球ノ中心ニ近ツカシムルユエニ、輕氣球ヲ構造セル物質ガ地球ニ牽カル、一ハ、空氣ヲ牽クカヨリ強キヤウナレド云々。 ● 若、地球ノ引力、空氣ノ抵抗力、物躰面ノ摩擦等ナキキハ、一タ、セ運動力ヲ得ルキハ、其ノ直行シテ静止セザル一幾千万年ニ至ラム一モ知レザルベシ。

正例。

● 人、妄語スルキハ、是、唯ソノ人ノ品位ヲ落スノミナラス、他人モ亦之ヲ厭忌シ、遂ニ擯斥シテ交際ヲ絶チ、ソノ困難ヲ見ルトモ顧ザルニ至ラム。 ● 政府ハ、我

ラノ人民ノ内ニテ徳望學識兼ネ備リタル人ニテ、我
 ラニ代リテ種々ノ取扱ヲ爲ス所ノモノナリ。 ● 冀
 ハクハ、自今益奮勉シテ教育ノ清波ニ棹サシ、縣下ノ
 幼童ヲシテ文明ノ良港ニ達セシムムヲ。 ● 冀ハ
 クハ、云々略中縣下ノ幼童ヲバ文明ノ良港ニ導カムト
 フ。 ● 追手呐喊シテ三方ヨリ徐々ニ進メバ、兎ハ、狼
 狽シ遁逃シテ一方ニ遮斷セル網ニ罹リテ竟ニ獵夫
 ニ捕ヘラル。 ● 地球ノ引力ガ物體ノ分子ヲ牽キテ
 地球ノ中心ニ近ツカシムルユエニ、輕氣球ヲ構造セ
 ル物質ガ地球ノ引力ニ牽カル、トハ空氣ガ牽カル
 ルカヨリ強キヤウナレドモ云々。 ● 若、物體ガ地球
 ノ引力、空氣ノ抵抗力、物體面ノ摩擦等ナクシテ、一タ

ク運動力ヲ得ムニハ、其ノ直行シテ静止セザルト幾
 千万年ニ至ラムトモ知レザルベシ。

無益ニ轉旋して彼我の限界を味ます誤

これは、彼我の關係を輕便にとり扱はずして、無益
 の轉旋を爲し、これによりて讀む者をして無用の
 計較力を費さしむる誤なり。

- 生徒タルモノ、不足スル智識ヲ以テ該博ナル教師
ニ對ヒ 生徒ハ 能動。 ツノ學術ヲ授ケラルル 生徒ハ 所動。 ニ於テハ。
- 訥辯ニシテ、他人ヲシテ己ガ意ヲ徹底セシムル
 能ハザルハ、言談ニ熟セザル罪ナリ。 ● 毛筆ハ、毛筆 ガ主 字
 ヲ鮮明ニシ或ハ大書スルト、鉛筆ノ 鉛筆 ガ主 及ブ所ニアラ
 ストイヘドモ、ソノ墨ヲ要セザルトニ於テハ、鉛筆ニ

及カザルナリ。鉛筆ハ對

能動といはたらきかくなるとなり。所動に對していふ。所動といはたらきかけらるるをいふ。

正例。

●生徒タルモノ、不足スル智識ヲ以テ談博ナル教師ニ對ヒ、生徒ハ能動ソノ學術ヲ得ムトスル生徒ハ能動ニ於テハ。

●訥辯ニシテ、己ガ意ヲ他人ニ徹底スルハ能ハザルハ、言談ニ熟セザル罪ナリ。●訥辯ニシテ、己ガ意ヲ他人ニ會得セシムルハ能ハザルハ、云々。●毛筆ハ、毛筆ハ能動字ヲ鮮明ニシ或ハ大書スルハ、鉛筆ニ勝ル鉛筆ハ能動トイヘドモ、ソノ墨ヲ要セザルハニ於テハ、鉛筆ニ及カザルナリ。鉛筆ハ能動

れのづから然せらるる句の誤。

れのづから然せらるるとは、自身に感動するものをいひ、または、作すとの成るものをいふ。心ニ惜マル。月夜ニ浮カル。良心ニ恥ザラル。心中惑ハル。なごの類は、自身に感動するものあり。復達ハル、アラム。歸路ニ家ニ寄ラル。静ナル夜ハ能ク寝ネラル。此ノ度ハ覺エラル。なごの類は、作すとの成るものをいふ。さておのづから然せらるる句、今躰文に用ると多からざるゆゑにや、その誤れのづから少一といへども、まゝ拙き句を見るとあり。

●是小樹ノ隨意ニ曲ゲ或ハ直クシ得ラル、ガ如シ。

●凡事ヲ爲スニ當リテ、直ニツノ事ヲ遂グルモノニアラス。

正例。

●是、小樹ノ隨意ニ曲ゲラレ、或ハ直クセララル、カ如シ。
●凡事ヲ爲スニ當リテ、ツノ事カ直ニ遂ゲラルルモノニアラス。

れのづから然せらるゝ句には、れのづから然せらるゝ詞あり。右の句にて、曲ゲラレ。直クセララル。なごいこれあり。

法則一。四段の詞、奈行變格の詞は、レ。ル。ル。ル。レに連りておのづりら然せらるゝ詞と成る。

法則二。一段、中二段、下二段、三段の詞、れよび加行變格の詞は、ラレ。ラル。ラル。ラル。レに連りてれのづら然せらるゝ詞と成る。

この動詞の活様の、れはむね他に然せらるゝ活圖に異ならず。詞の例を舉ぐれば、四段にてい、心浮カル。成サムト欲スレバ成サル。奢ラザレバ、永クツノ富ヲ有タル。世ニ永ラヘバ、復達ハルル。ナリ。惜マルル花盛。道近ケレバ、家ニ寄ラル。ナ行變格にてい、死ナレスシテ蘇生ス。なごの類なり。これらは、第一則に従ふものとす。一段にては、衣服モ着ラル。血球マデ見ラル。中二段にては、夏ノ朝ハ早ク起キラル。自身ニモ恥チラル。疾愈エテ湯ヲ浴ミラル。海底ニ下リラル。下二段

にては、後門ヨリ逃ゲラルル。百貫目ハ載セラルル。
 行^ヤ雨止ミテ出デラルル。行^ア寤メテ寐ラレス。行^ナ一度ニ
 算ヘラルル。行^ハ伸グルモノハ、縮メララル。行^マ心ニ感スレ
 バ、覺エラルル。行^ヤカ行變格にては、再タビ来ラレス。
 三段にては、按セラルル。なむの類なり。これらは
 第二則に従ふものとす。
 況といふ詞の追補。自在庵光林のまに〜草に
 云はく、況はいふにも及ばずといふ意なり。平康頼
 が寶物集に「申さむや十六丈をや、いはむや金銅を
 や」と大佛のすぐれたるよゝをいへり、この申さむ
 やともいへるにて心得べしと。

文章添削方針卷之三 終る

文章添削方針卷之四

阿保友一郎 著

句の正誤。

第三章。過去句の誤。

●予、日ニ一二ヲ解スル。一ヲ得タレバ、積リテ終ニ多
 キニ至ル。●兒童ニ此ノ話ヲ聞カセタレバ、大ニ喜ブ
 ペシ。●兒童ニ此ノ話ヲ聞カスレバ、大ニ喜ブベシ。
 この句にて過去の時を表さむとするは、誤あり。得
 タレバ、聞カセタレバ、聞カスレバ、大ニ喜ブ、大ニ喜ブ
 を用まども、至ルといふ現在の動詞。あるはベシと
 いふ未來を推量する助辭。子の日本文法には、形
 狀辭の部に入れたり。を對せしむ

るゆゑに、前後一致せざるあり。宜しく至レリ。喜ゼ
タリといふ過去の詞を用て左の如く正すべし。

●予、日ニ一ニヲ解スルヲ得タレバ、積リテ終ニ多
キニ至レリ。 ●兒童ニ此ノ話ヲ聞セタレバ、大ニ喜
ゼタリ。 ●兒童ニ此ノ話ヲ聞スレバ、大ニ喜ベリ

未來句の誤。

●予、日ニ一ニヲ解スルヲ得バ、積リテ終ニ多キニ
至レリ。 ●若、兒童ニ此ノ話ヲ聞セバ、大ニ喜ゼタリ。
得バ、聞セバといふ未來の動詞を用れども、至レリ。
喜ゼタリといふ過去の詞を以て結ぶゆゑに誤と
成るなり。宜しく至ラム。喜グベシ。喜バムといふ未
來の詞をもちる、前後一致せしめて結ぶべきあり。

正しき例は、

●予、日ニ一ニヲ解スルヲ得バ、積リテ終ニ多キニ
至ラム。 ●若、兒童ニ此ノ話ヲ聞セバ、大ニ喜グベシ。
●若、兒童ニ此ノ話ヲ聞セバ、大ニ喜バム。

現在句の誤。

●予、今日ニシテ、此ノ意味ヲ會得セム。 ●兒童ハ、此
ノ話ヲ喜ベリ。

これ現在句としては誤なり。宜しく會得ス。喜グと
いふ現在動詞を用るべし。正しき例は、

●予、今日ニシテ、此ノ意味ヲ會得ス。 ●兒童ハ、此ノ
話ヲ喜ブ。

議論句の誤。議論とは、事率に對へてい
ふ。限界を廣く見て可なり。

●普通學ハ、手近キ學科ヲ教授シタルモノナリ。●字ヲ知リテ知識ヲ開キタルハ、鍵ヲ得テ寶庫ヲ開クガ如シ。

これ議論句の誤あり。凡、議論句にして斯様ある所に、教授シタル、開キタルなど過去の詞を用るは、宜しからず。左の如く正すべし。

●普通學ハ、手近キ學科ヲ教授スルモノナリ。●字ヲ知リテ知識ヲ開クハ、鍵ヲ得テ寶庫ヲ開クガ如シ。聊、参考の爲ふ、右に用たる動詞並ふ助辭の時を圖表に製して之を示さむ。

助辭を添へて未來(當然)および否定の活を爲す。アリの合成格は別なり。

助辭を添へて過去の活を爲す。アリの合成格は助辭なくとも過去なり。

助辭なくして現在の活を爲す。アリの合成格は助辭なくとも過去なり。

同ト

助辭を添へて半過去(已然)の活を爲す。同ト

四段	至ラ 喜バ 開カ	至リ 喜ゼ 開キ	至ル 喜ブ 開ク	至ル 喜ブ 開ク	至レ 喜ベ 開ケ
下二段	得 ^ユ 聞 ^セ	得 ^ユ 聞 ^セ	得 ^ル 聞 ^ス	得 ^ル 聞 ^ス	得 ^レ 聞 ^{スレ}
アリの合成格	喜ベラム 至レラム	喜ベリ 至レリ	喜ベリ 至レリ	喜ベル 至レル	喜ベレ 至レレ
三段	會得セム 教授セム	會得シ 教授シタル	會得ス 教授ス	會得スル 教授スル	會得スレ 教授スレ

圖中のム、バ、タリ、タル、タレ、ベシ、ハ、ガは、助辭なり。過去句の誤。その二。

●彼ハ執心ニ勉メシユエニ、見事ニ卒業ス。先日卒業したるものに就きていふ。

⑤ 難易ヲ量ラスシテ事業ヲ起シシユエ、終ニソノ目的ヲ遂グルル能ハジ。 ⑥ 桓武帝延曆寺ヲ建テサセタマヒテ今幾千百年ナリ。

正例。 その二。

④ 彼ハ、執心ニ勉メシユエニ見事ニ卒業シタリ。 ⑤ 難易ヲ量ラスシテ事業ヲ起シシユエ、終ニソノ目的ヲ遂グルル能ハザリキ。 ⑥ 桓武帝延曆寺ヲ建テサセタマヒシヨリ今幾千百年ナリ。

現在句の誤。 その二。

③ 今度勸業委員ノ名稱ハ廢セシモ、郡制ヲ實施スルマデ、實際ニハ之ヲ置クモノトス。

正例。 その二。

② 今度勸業委員ノ名稱ハ廢ストテモ、ナホ郡制ヲ實施スルマデ、實際ニハ之ヲ置クモノトス。

未來句並に假設句の誤。 その二。

① 人、困苦勉強セバ、自知知識發達シ志望成就ス。 ② 家ニ千金ヲ積ムト雖、志柔弱ナラバ、事業ヲ成就スルル能ハザルナリ。 ③ モシ懦夫ヲシテ此ノ風ヲ聞カシムレバ、慚汗背ヲ濕スベシ。 ④ 人ハ己ガ身ノ分限ヲ量リテ目的ヲ立ツベシ。然ラザレバ大ナル失敗ヲ招キ永久ノ禍ヲ遺スニ至レリ。 ⑤ モシ聖賢ノ言ニ從ヘバ、何ゾ國ヲ破リ家ヲ亡ス^{*}コレアラム。 ⑥ 支那ノ古例ニ國境ヲ出ヅル節ニハ、始テ逢ヒタル人ニ贈ルベキ贄ヲ携フル^{*}アリ。

正例。その二。

● 人、困苦勉強セバ、自知識發達シ志望成就セム。 ● 家ニ千金ヲ積ムト雖、志柔弱ナラバ、事業ヲ成就スル一能ハジ。 ● モシ懦夫ヲシテ此ノ風ヲ聞カシメバ、慚汗背ヲ濕スベシ。 ● 人ハ、己カ身ノ分限ヲ量リテ目的ヲ立ツベシ。然ラズバ大ナル失敗ヲ招キ永久ノ禍ヲ遺スニ至ラム。 ● モシ聖賢ノ言ニ從ハバ、何ゾ國ヲ破リ家ヲ亡ス一コレアラム。 ● 支那ノ古例ニ國境ヲ出ヅル節ニハ、始テ逢ハム人ニ贈ルベキ贄ヲ携フル一アリ。

議論句の誤。その二。

● 形容詞ハ、名詞ヲ形容シタルモノナリ。 ● 文題ハ、成ルベク生徒ノ心カニ適シタルモノヲ擇マザルベカラズ。 ● 人、能ク大難ニ勝ツ一ヲ得バ、則目的ノ成就セズト云フ一ナシ。 ● 蜘蛛ハ小虫ナリト雖、餌ヲ求メムト欲セバ、終日怠ラズ。 ● 生徒、言行ノ正シカラザレバ、師匠教訓ノ至ラザルナリ。 ● 丁稚カ使ヲ完了スレバ、是本分ヲ盡シタルナリ。 ● 家ニ千金ヲ積ムト雖、志柔弱ナラバ、事業ヲ成就スル一能ハザルモノナリ。これは、両方に出す。

正例。その二。

● 形容詞ハ、名詞ヲ形容スルモノナリ。 ● 文題ハ、成ルベク生徒ノ心カニ適スルモノヲ擇マザルベカラズ。 ● 人、能ク大難ニ勝ツ一ヲ得ルキハ則目的ノ成

就セズト云フ一ナシ。⑤蜘蛛ハ小虫ナリト雖、餌ヲ求メムト欲スルキハ、終日怠ラズ。⑥生徒言行ノ正シカラザルハ、師匠教訓ノ至ラザルナリ。⑦丁稚カ使ヲ完了スルハ、是本分ヲ盡スナリ。⑧家ニ千金ヲ積ムト雖、志柔弱ナルキハ、事業ヲ成就スル一能ハズ。

練習。

●目ナケレバ、何ソ視ル一ヲ得ム。耳ナケレバ、何ソ聞ク一ヲ得ム。●若事ノ難易ヲ量ラズバ、事業ヲ起ストモ、終ニソノ目的ヲ遂グル一能ハザリキ。●某國モシソノ罪人ノミヲ移サズシテ、飢渴ニ迫レル貧民ヲモ、此ノ地ニ送りシナラバ、兩全ノ處置ナラム。●彼ハ、唯、眼前ノ小利ヲ得ル一ニ汲々トノ後日ノ事ヲ

慮ラズ、後來恐ラクハ世人ニ嫌ハレ、店舗衰微スルニ至ル。以上四題は假設句として正せ。①各地ノ生徒一場ニ會スレバ、吾人ノ未聞カザル地名、方言ヲ聞ク。是、教授ノ際ニ於テ益ヲ得タルナリ。②世間ノ事ヲ辨スルニハ、文字ヲ知ラザルベカラズ。ソノ文字ヲ知ルニ至リテハ、讀書ニ依ラザルベカラズ。(五)(六)は議論句として正せ。

新に生るものをば、固より存在する様に書く誤。

固より存在するものと新お生るものとは、大なる別あり。その例、

聖人ハ、生ナカラ賢ナリ。 存在。
常人ハ、學ビテ後ニ賢トナル。 新生。

六 會社 富山 辰 辰

老人ハ、白髮ナリ。

存在。

年老イテ白髮トナル。

新生。

年老イテ白髮ヲ生ズルニ至ラム。推量。

されば文を作るもの、この点にも注意すべきことな

り。又新カクお生るべきものを推量する方は、新カクに生る

方とは、異なる所あれども、その意あひ近ければ、縁

を以て一例を擧ぐるあり。新生句の正誤、左の如し。

●常ニ誇ルモノハ、人人之ヲ忌ミ嫌ヒテ教ヘ授クル

一ナキユエニ、ソノ識量自狭隘ニシテ事ヲ誤ル一ア

ラム。●人ハ、生ナガラニシテ賢ナルモノニアラス。

効ヨリ學問ヲ勉メ種々ノ苦痛ヲ嘗メテ、然ル後ニ賢

ナルモノナリ。●人、口ニ言ハムト思ハバ、先ツ身ニ行

ヒ得ラルヤ否ヤト顧テ後ニ語レ。然ラザレバ自オ世人ノ輕蔑ヲ招クガ如キモノナリ。

正例。

●常ニ誇ルモノハ、人人之ヲ忌ミ嫌ヒテ教ヘ授クル

一ナキユエニ、ソノ識量自狭隘トナリテ事ヲ誤ル一

アラム。●人ハ、生ナガラニシテ賢ナルモノニアラ

ス。効ヨリ學問ヲ勉メ種々ノ苦痛ヲ嘗メテ然ル後ニ

賢トナルモノナリ。●人、口ニ言ハムト思ハバ、先ツ身

ニ行ヒ得ラルヤ否ヤト顧テ後ニ語レ。然ラザレバ自オ

世人ノ輕蔑ヲ招クニ至ラム。

第四章。

繼續句・解釋句の辨明。

繼續句とは、第一の作動ふて第二の作動を生じ、初の理想に因りて次の理想を生ずるものをいふ。これをいひかふれば、第一次の原因にて第二次の結果を生ずるあり。まかして繼續句には、第一次と第二次との間ふてまたはバの接續辭を用るが通例あり。解釋句は、次の句を以て初の句を解釋するものなり。或は次の句を以て初の句を判斷するものなり。こまを概言するに、繼續句は、事實を述ぶるとあり。理想を述ぶるとあり、また假に設けて述ぶるとあり。解釋句には、説明するとあり、論斷するとあり、教諭するとありとす。

繼續句の誤。

● 人能ク運動スレバ、身軀ヲ健全ニスル術ナリ。
 ● 物ノ數ヲ知ラザレバ、愚ナル人ナリ。
 ● 人、妄ニ思慮スレバ、精神ヲ使用スルナリ。
 ● 智恵ナキモノト交レバ、利益少キ理ナリ。
 ● 人、富貴安逸ナルキハ、才徳ヲ養フニ用ナキナリ。
 ● 人、睡眠カ足ラザレバ、腦ノ機能ヲ減ス。腦ノ機能ヲ減スレバ、身軀健康ナラザル所ナリ。
 ● 一時ニ事業ヲ成サムトセバ、是、失敗スル所以ナリ。
 ● 夾ミテ之ヲ攻メバ、必勝ノ策ナリ。
 ● 人ヲ正サムト欲スルハ、先、己ヲ正セ。
 ● 人、能ク世間ニ功益ヲ爲スキハ、自天意ニ協ヒテ幸福ヲ得、衆人ノ尊敬ヲ受クル所以ナリ。

正例。

文章 卷の四 論語の誤 八 合資

●人、能ク運動スレバ、身軀健全ト成ル。 ●物ノ數ヲ知ラザレバ、物ヲ賣買スルニ能ハズ。 ●人、妄ニ思慮スレバ、精神ヲ疲勞ス。 ●智慧ナキモノト交レバ、利益少シ。 ●人、富貴安逸ナルキハ、反テ才徳ヲ養フニ能ハズ。 ●人、睡眠ガ足ラザレバ、腦ノ機能ヲ減ス。腦ノ機能ヲ減スレバ、身軀衰弱トナル。 ●一時ニ事業ヲ成サムトセバ、却テ失敗スルニ至ラム。 ●夾ミテ之ヲ政メバ、必、勝利ヲ得ム。 ●人ヲ正サムト欲セバ、先、己ヲ正セ。 ●人、能ク世間ニ功益ヲ爲スキハ、自天意ニ協ヒテ幸福ヲ得、衆人ノ尊敬ヲ受ク。 ●人、能ク世間ニ功益ヲ爲サバ、自天意ニ協ヒテ幸福ヲ得、衆人ノ尊敬ヲ受クルニ至ラム。

前條に繼續句には、事實狀述ぶると、理論を述ぶると、假設して述ぶるとあるとあるといへり。今少しく例證を引きてこれを辨明せむ。

假に設けて述ぶる句。

●ソノイサヲラムクイヌ功ハ、イツハリセシニナリヌベシ。
古事記の訓に據る。

●告ゲ言サ轉一ハ則兄ノ王キヲ亡ハム。言サ轉一ハ則社稷ヲ傾ケテム。日本書紀の訓に據る。

確と定りたる實事を述ぶる句。

●逃グル軍ヲ遮リテ斬レ轉五ハ、鶉ノゴト河ニ浮キタリキ。
古事記の訓に據る。

●撃テ轉五ハ則草ニ隠レ、追ヘ轉五ハ則山ニ入ル。

● 恩ヲ承ケテ轉二ハ則忘レシ怨ヲ見テ轉二ハ必シ報ユ。

● 卧シテ轉二ハ泣キ行キテ轉二ハ號ビテ轉二ハ耻ヲ雪

メム一ヲ思フ。日本書紀の訓二ハ據る。（二）（三）は東夷の條。
（四）は弘計王の條。

確と定りたる理論を述ぶる句。

● 君子重カラザル轉四ハ、則威アラズ。

● 父在マ轉四ス轉五ハ、其ノ志ヲ觀ル。父没シ轉四ヌル轉四ハ、其ノ行ヲ觀ル。管公の訓二ハ據る。（これは古登点にして北野天満宮の實錄

● 君子重カラザレ轉五ハ、則威アラズ。（これは寛政三年の刻本より淺草

せし論
語なり。

● 父在ス轉四ハ、其ノ志ヲ觀、父没シ轉四ヌル轉四ハ、其

ノ行ヲ觀ル。林道春の訓二ハ據る。（これは寛政三年の刻本より淺草

し文庫小松藏せし論語なり。

● 君子重カラザレ轉五ハ、則威アラズ。

● 父在マ轉五セ轉五ハ、其ノ志ヲ觀、父没ス轉五レ轉五ハ、其ノ行

ヲ觀ル。後藤芝山の訓二ハ據る。

これよりして考ふれば、（をば、ハトリッ）富貴安逸ナル

ハトするも又は富貴安逸ナレバトするも兩方

あひ通ふに似たるゆゑ、この添削方は、まばら

く兼ね用るとふ爲したり。されど細別を要する上

に確定の實事と確定の理論とを分たむと欲せば、

確定の實事をナレバと書き、確定の理論をば管公

訓点の例二ハ效ひてナルハと書かば、すまはちを

の別を爲すを得む。

解釋句の誤。

●人ノ運動スルハ、身躰健全ト成ル。●物ノ數ヲ知
ラザルハ物ヲ賣買スルニ能ハズ。●人ノ思慮スル
ニハ、精神ヲ疲勞ス。●智恵ナキモノト交ルハ、利益
少シ。●人ノ富貴安逸ナルニハ、反テ才徳ヲ養フニ
能ハズ。●人ト生レテ學バザレバ、生涯ノ損ナリ。
●一時ニ事業ヲ成サムトスルハ、却テ失敗スルニ至
ラム。●夾ミテ之ヲ攻ムルニハ、必ズ勝利ヲ得ム。●
約束ヲ守ルニハ、世人ノ信用ヲ受ク。●僻陬ノ地教
育洽カラズ、又家庭ノ教訓モ行キ届カザレバ、情勢ノ
止ムヲ得ザルモノニシテ、強ニ父兄ノミヲ答ムベカ
ラス。●世人ノ尊敬スル所トナレバ、己ノ幸福ナリ。

正例。

●人ノ運動スルハ、身躰ヲ健全ニスル術ナリ。●物
ノ數ヲ知ラザルハ、愚ナル人ナリ。●人ノ思慮スト
云フニハ、精神ヲ使用スルニナリ。●智恵ナキモノ
ト交ルハ、利益少キ理ナリ。●人ノ富貴安逸ナルニ
ハ、才徳ヲ養フニ用ナキニナリ。●人ト生レテ學バ
ザルハ、生涯ノ損ナリ。●一時ニ事業ヲ成サムトス
ルハ、是、失敗スル所以ナリ。●夾ミテ之ヲ攻ムルニ
ハ、必ズ勝利ノ策ナリ。●約束ヲ守ルニハ、人間必用ノ事
ナリ。●僻陬ノ地教育洽カラズ、又家庭ノ教訓モ行
キ届カザルハ、是、情勢ノ已ムヲ得ザルモノニシテ、強
ニ父兄ノミヲ答ムベカラズ。●世人ニ尊敬セラレ
ルハ、己ノ幸福ナリ。

合資 富山県編輯 十一

●の誤は、二重に正したるあり。元來「世人ノ尊敬スル所ト爲レバ」といふ句は、漢文直譯の誤あるゆゑに、三卷なる他亦然せらるる正誤の法に因り、まづ「世人ニ尊敬セラルルレバ云々」と正し、去かして後に「世人ニ尊敬セラルルハ云々」と正したるなり。

又一種の誤にて、本來、解釋句法の性質あるものを方便句法の如く書き誤るものあり。方便句の事は第七卷あり。

橋梁ヲ架シ運送ニ便益ヲ與フルハ、帝ニ慈悲ノ善行タルノミナラス、實ニ邦國ヲ救濟スルニアリ。

あとの如し。この誤は、ニアリをモノナリと正せば可あり

練習。

●人ノ運動スレバ、氣血ヲ循環セシムル藥ナリ。●物ノ理ヲ知ラザレバ、生涯ノ損失ナリ。●恩ニ報イムト欲スレバ、人ノ道ナリ。●人、一タセ疑恠ノ心生スルキハ、是、智識ヲ得ル始ナリ。●生徒ノ身分ニシテ、教育ニ關係ナキ朋友ト交際ヲ厚クスレバ、直接ノ利益ナキナリ。●州内ノ人民ヲ教育スレバ、州内ノ人民ヲ開明ナラシムル本トナレバナリ。●世人ノ尊敬ヲ受クルキハ、人生ノ幸福ナリ。●

セムトセバ、是——スル所以ナリ。

この練習の八題は、解釋句と繼續句との兩様に正去。その内●は、線のまゝふして正すべし。

第五章。

反落句の誤。

反落句は、一に逆落句ともいふ。順落句が對へたる名あり。通常は、これを反語とのみいへり。いま詞と句とを別たむため、反落句おらより名を用たるまであり。これは、多く人^ら對しておらより激おみいふとき用るなり。うらを言ひておもてをきりする法あり。此句は、必反その係正ふナニ。アニ。タレ。イツレ。イカニ。イツクニ。イカデといふ詞何をもちゐ、アニの外何は、カ如の辭馬を添へて、ナニマツ。タレカ。イツレカ。イカニマツ。イツクニマツ。イカデカおどとし、あるは、詞を隔て添へて、ナニスレマツ。ナニ事カ。ナニヲ欲シテカ。おどとし、結の辭をば、ム。ムヤ。スヤ。とす。このヤは感激のヤ

あると次丁ふ詳に辯することし。又ナンツ。イカマンツ。イツクンマツ。は音便なりとす。誤例左の如し。

●人誰カ、富貴ヲ願ハザルモノアラズヤ。 ●彼ハ、志ヲ救フ。是豈、臣タル者ノ義ナラムヤ。 ●彼ハ、君ノ難ヲ敬ハズ。是豈、第タル者ノ道ニアラスヤ。 ●何事カ、成就セスト云フ理アラズヤ。 ●何ノ藝カ、進歩セスト云フ一アラズヤ。 ●人馬マツ、一藝に達セスシテ可ナラスヤ。 ●万物マイツレカ、三躰中ニ現レザル者アラズヤ。 ●固形、流動、氣狀の三體をいふ。 ●豈、戒心マセスバアルベカラズ。 ●何ヲ求メテ得ザル一ナク、何ヲ欲シテ成ラザル一ナシ。

正例。

● 人誰カ、富貴ヲ願ハザルモノアラム。 ● 彼ハ、怠惰ナリ。何ゾ、志ヲ遂グル日アラムヤ。 ● 彼ハ、君ノ難ヲ救フ。是豈、臣タル者ノ義ナラスヤ。 ● 彼ハ、兄ヲ敬ハス。是豈、弟タル者ノ道ナラムヤ。 ● 何事カ、成就セスト云フ理アラム。 ● 何ノ藝カ、進歩セスト云フアラム。 ● 人焉ゾ、一藝ニ達セズシテ可ナラムヤ。 ● 万物イヅレカ、三昧中ニ現レザルモノアラム。 ● 豈、戒心セザルベケムヤ。 ● 何ヲ求メテカ得ザラム、何ヲ欲シテカ成ラザラム。

反落句の誤ふ二様あり。係、結の詞は、反語の形を具足すれども、意味の了解し難きものあり。甲「意味は、

推察し易けれども、反語の形を缺き、係、詞のみ反語ふて、結、辭の之に應ぜざるものあり。乙「甲は、●より●までの誤にて、乙は、●より●までの誤あり。又反語、反落句といふにあらず、唯平常より度を高めて聞えものをして感ぜしめむばありに、何ゾ、何如ナル、などの詞を用るものあり。これは、句の形あひ似とまども、その實、異ありとす。誤例にては、 ● 何ゾ、教員ノ誤解スルノ甚シキニアラスヤ。 ● 何ゾ、カ、安樂ヲ與フルモノゾ。 正例にては、 ● 何ゾ、教員ノ誤解スルノ甚シキ。 ● 何モノカ、安樂ヲ與フル。 などの類なり。

前條^{十三}の正例の ● ● ● に就きて、豈とヤとを詳解

せむに、あにといふ詞の意は、井面守訓云はく、あは
な_レの轉あるべし。あにといひてうちかへしもどく
意ふいふ。意を下ふ及ぼさずいひきる如くいひ、俗
ふナニサ、ナンノサなどいふが如し。又下の辭にか
けてもいふ。俗にドウシテといふが如しと。鹿持雅
澄も、あにはいかでの意あるべし。といへり。漢字の
豈の字義は、王引之の經傳釋詞を按ふるに、二様あ
り、一をば安也焉也と釋し、二をば猶其也と釋せり。
二の方は、反語あらねば、今体文に用おし。一の方は、
乃いづくんどあんどの意あり。また虚字考證を按
ふるに、怎麼の字を當てたり。乃いかにあんどの意
なり。またこのやは、橘うしの説の如くうちかへし

のやあり。けだしやの解説ふ就きては、諸書まぢま
ちに分れ、學ぶ者の惑を生じ易ければ、くだくま
きやうあれども、ついでふ歌の句を引きてあらへ
舉げ示さむとす。

一に、疑のや。

こぞとやいはんことしとやいもん。君やこん我
や行かん。かゝるたぐひふやありけん。

二に、問ひかけのや。

花ちりぬや。と人もこそ問へ。わがおもふ人はあ
りやなしや。と。おもひ出づや。イカニ

三に、感歎(歎息)のや。

ことわりや。かひなしや。

道理

四に、うち反へし(反語)のや、

われや忘るる。忘ルモノカイ。 色に出でぬや。色ニ出スモノカヨ。

とあひあきふちやはさわぐ。サワグモノカヨ、サワグハセヌ。

五に催促のや。

ナセこたへやはせぬ。ナセあらせやはせぬ。ナセ

六に希望のや。

きかばやみせばや。

七に命令のや。

なげや驚。あふ阪の関のせきもり心あれや。

八に呼びかけのや。

やよやまて。やよまむし。

九につらねのや。言極うしは連辭のやと名づけ、極うしは呼びだしのやと名づけられたり。

神風やいせの。まきしまややまと。

十に、つよめのや。言極うしは強辭のやと名づけ、極うしは拘子のやと名づけられたり。

まにはづにさくやあの花。ほとゝぎす鳴くやさ
月の。まどの類あり。

以上斯所在の異あるより十種一派るといへども、
その氣脈の通ふ筋を考ふれば、また二三種一約む
るをも得べし。それ疑のやと當てたる内一疑惑
の方あり、想像の方あり。又物を尋ね問ふは、知らぬ
故あり。物を疑ふも、亦知らぬ故あり。されば疑と問
とは、二一して一、一よして二あるが如し。ただこゝ
は、己の心一疑ひ居る初念が他一向ひて問はむと
する次念一移りたる所をば、引き分けて問の部と

爲たるあり。黒澤翁滿も云へるとあり。古今九の「わ
 がれもふ人もありやあしや」とあるを源氏夕霧の
 卷一は「あるや戀しきをなきや悲しき」とせり。これ詞
 のどちめよあるやを詞の上へめぐらしたるあり
 と。これらより按ふれば、一と二とは、あひ通へり。希
 望は、己が心よばかり希ふあり。命令は、人ふ向ひて
 言ひつくるあり。人ふ言ひつくるよは、己が爲にす
 るともあり、人の爲にするともあり、双方の爲ふす
 るともあり、國家の爲ふするともあり。さまざまあり。又
 命令の方は、かくやせましと願ふ初念は、過ぎ
 越して他ふ命ずるとの次念に移りたり。希望の方
 は、その初念あり。これ二項に分けとる理由あれど、

從來のある文法書ふは、希望と命令とを一よ合せ
 て下知の詞と名づけしもあり、希求言と名づけし
 もあり、あるは命令と名づけしもあり。あれ六と七
 とは、固より氣脈あひ通へばあり。古の人、命令のや
 をあつらへるやといへるも有り。富士谷成兼 呼びかけ
 のやをあつらへるやといへるもあり。鈴木重胤 これ七
 の命令と八の呼びかけとたがひふ縁、あれむあり。
 先師生川翁、常に九と十とを詠ナカのやと稱へられた
 り。富士谷氏ふもはやくよりこの説あり。これ九と
 十と縁あればあり。催促のやのうちかへしのやに
 混マひ易きとは、古人も既に説きたり。これあひ似た
 る所あるゆゑあり。予按ふるに、催促のやは、問ひか

けのやとうちかへしのやとの中間に位をもるもの
 あらむ。(二四五あひ關係す)命令のやのよ通ふ
 きとは、先師も常は諭されたり。あけや あれや
 はやの辭をしせも固より命令なり。やの有無に係
 らざるあり。こゝおてり、あのやは感激の意にて、即
 感歎のやお通ふとを知らる。いひかふれば、命令の
 やと感歎のやと同物あらむとを悟らる。(三七あひ
 關係す)うち反へしのやに就きてある文法家は、所
 屬を立てず、ある文法家は、疑のやに屬せしむ。所屬
 を立てざるは少しく粗あり。疑のやお屬せしむる
 も満足せぬ心地す。愚考おては、これは、感激のやに
 して、感歎の部に屬せしむべきかと思ふ。その故

は、うち反へしは、うらを言ひておもてを利する
 おて、人よ對し物に向ひて、こどさら正に激みていふ
 ときに用る詞あればあり。我ハ忘ル、カヨ(我や忘
 る)顔色ニ出スモノカ(色に出でぬや)おどと固よ
 り決心していふとあれば、一点の疑心をも挿まざ
 ると明あり。(三四あひ關係す)黒澤翁満云はく、あ
 りはづおさくやこの花。またしまややまと。や
 よやまて。いそげや早苗。いでや。こどわりや
 おどいささかづの輕重はあれども皆同じまや
 ありと。さまば、以上十種のやは、強弱輕重深淺の差
 ありといへども、氣脈のあひ通ふ所より復、疑問、感
 歎の二種お約むるをも得べきか。あれを分ちて

れを合するは、教授の運用あり、かつ陳べかつ束ぬ
るは、了解の方便なり。

某生問ひて曰はく、何あどの疑の詞の下にやを置
くと、文法家のいたく戒めし所あらずや。おの章の
正例の中お二三見受くるはいかに。予答へて曰は
く、談何ぞ容易あらむ。先覺者の諸説を博覽せざれ
ば、是非を判断すると難し。いま試ふ左に數例を擧
げむ。富士谷成章は、安永二年の著書四年前社およそ
上に疑のかざしをうけて中お置くは、おとしにし
て、やもしおあらざるを述べられ。本居先生は、安
永八年の著書お、なにかにいかでいづきいつい
くたまことがあどの下お、いゝあるとよやあらん。と

まにやあらん。いく年月をやへぬる。たが里よりや
きぬらん。おどそやもじを置くはあし。うもじを置
くべしと論さまこり。これ一説。本居先生は何あど
の下、みあかど受くる例あるに、おどとなどどの二
のみやど受くる例あり。あどはかと受とるが多く
してやど受くるは、すくなく、あどはやど受くる例
のみにてかと受くるとあしと教へらまたり。又何
事ぞたれぞいゝおどなどの下お、かといふとあ
し。いかにぞやあどそやもじを置くと、あらびよこ
のやは、疑のやあらず、よに通ふやあるとを示さ
れたり。長野義言も、あどやいかまどやいづくどや
あどは、上の何ぞにて切れたるよ歎息のやを添へ

たるなり。亦にどもおふどもなどいふに同じと補
 いたり。新勅撰十三に、いかありし時ぞや、といふ句
 もあり。あま二説。又あどやなどやいかにぞやいつ
 くぞやなにあれやいかあれやあど別に一の格あ
 りと、本居先生の申さまき。古今八れ「あまよけりあ
 はまいくよれ宿あれや。すみけん人のおとづれも
 せぬ」後拾十二の「ほどもおくおふる心はあふあれ
 や。去らでぞにおをとしもへにしか」のやを以て歎
 息のよお通ふやありと、橘守部の辨せられき。あま
 三説。万葉八に、おとつげやりしドウヂヤいかおつげきや、と
 いふ句あり。同四お、いかにをきくや、いぶかしわぎオボツカナシ
 も。後撰一に、春雨にいかにぞ梅やおほうらん。續古毎

今四お、たれ、となく、心よ人のまゝとるやながむる
 月のさをふなるらん。源氏真木柱に、ふるさと人を
 いかよ。去のぶや。後拾遺十お、いゝおど、君が袖はく
 ちぬや。といふ句あり。先覺者の説に、いかおつげき
 や、は、告げきや、いかおありし。の意。いかにさきくや。
 は、さきくや、いかお。といふ意なり。後撰あらびに後
 拾遺の、いかにずにて切れ、續古今の、もたまにて
 切れ、源氏のもいかによて切るればや、とじ妨なし
 といへり。これ四説。聞くや、いかよ。ぬしや、たれ。
 — や、あど。 — や、いづこ。 — や、いづく。 —
 や、なおいとくらん。 — や、いかならん。 — や、
 いづこぞ。 — や、あおろ。 — も多し。なにとかやと

いふもあり。これ五説。かけろふ日記よ。なふがしを
 ど女房はむつまじくおぼすべきや。わがかたよど
 よるべきや。あどあるを中島廣足は、どのかゝりを
 きにて結び切りて、さてやと受けて問ひかくる意
 かりといはれき。源氏の「おぼしやる方どなきや。い
 みじくどあるや。にほひど人お似ぬや。もこれお準
 へて知らる。あれ六説。古十の「ひろはゞ袖にはかあ
 ららんや。後十五の「言の葉に絶えせぬ露はおくら
 んや。あどのんや」といふと、文には多くあれど、歌に
 はいとまきあるとにやといひて切るとも、文よは
 多るまども、歌には見當らざる由。本居先生は教へ
 らまき。これ七説。先生又云はく、あまめや。いでめや。

おとらめや。かへらめや。あすれめや。あどの意のう
 らがへるときに用ふるめや。万葉ふいと多しと。こ
 き八説。万葉三ふ、あたひあき寶といふともひとつ
 きのにぶまる酒にあにまさらめや。とあり。何とて
 益らむやは、益らじ。と^益いふ意あり。又あに^若しかめや
 も。といふ句もあり。万葉四に、あにまさらじ^若あ。とい
 ふ句もあり。いあでまさらむや。とも、いかでまさら
 じ。ともいふが如しと。先覺者いへり。こき九説。菰原
 廣道云はく、などや。あどや。あかにどや。あづとどや
 あにまきや。いかあれや。やいかに。やあに。あどの類
 を別ふ一。の格のやうにいはれたるはいさゝか心
 由かず。何あどとや。かど重ぬるにてもあう。何

などは、係辭よりあらざることを知るべきあり。おほく
 かを置きてやをねかぬは、たゞ語調のあしければ
 の故か。またはやよりもかはすことし平らうに聞ゆ
 る故ふてもあるべしと。これ十説。橘守部云はく、あ
 にふひ、疑にあらすして歎きてもひひ、悔いてもい
 ふ。又否^{ナシ}あどひふとあり。あにせんにあにしも
 同じ。^{証あれ}あよからず。あにあらじ。あにあらぬ。あふ
 どは。などは、疑のあにと同語なれどひひけす意
 て用ひざま異ありと。こま十一説。今の文を作るも
 の、もし右の一説のみを知りて、その他を察せず。あ
 へて何あどの詞の下ふは、やを置きがたしと限る
 は、固陋の謗を免れざるべし。たゞ博く先覺者の説

を觀て、文例に照し語調を考へて、添削すべきあり。
 正例中の●●●のヤも感歎を減じて語調を粗
 豪ふせむと欲せば、あるひは削るも可ありとす
 練習。

●何事カ成ラザルハナシ。 ●豈此ニ注意シテ莫大
 ナル費用ヲ省カスバアルベカラズ。 ●是我ガ輩ガ
 勇進努力シテ精神ヲ教育ニ盡サザルヲ得ル所ナラ
 ムヤ。 ●人誰カ福祉昌盛ナルヲ願ハザル者ナカ
 ラムヤ。又福祉昌盛ヲ永遠ニ保ツ。一ヲ欲セザル者ナ
 カラムヤ。 ●人愉快ニ業ヲ執ラム。一ヲ欲セバ、身軀
 ヲ健康ニセスシテ可ナラスヤ。

順落句の正誤

り。初學の徒、もしこの圖表を請む、この理を詭味して、自^オ一定の表準あることを悟るに至らば、他日これを擴めて應用せむとも、亦容易あるわざならむか。句頭の圈点は、善の意および現るゝとの意を含めることを示し、句頭の黒点は、惡の意および現れざるの意を含めることを示すあり。

表の一。

- よからざるを得ず。●あしからざるを得ず。
- あによからむや。○あにあしからむや。
- よからむ。●あしからむ。
- よし。
- よららず。○あしからず。

- よからざらむ。○あしからざらむ。
- あよからずや。●あふあしからずや。
- あふよらざらむや。●あふあしからざらむや。

表の二。

- 豈現るゝとあらむ。○現るゝと能はず。
- 現るゝとあり。○豈現るゝとあからむ。
- 現る。●現るゝとあし。
- 現れず。
- 現れざるもあり。○現れざるとなし。
- 豈現れざるもあり。○現れざるを得ず。

理窟の上より言はば、「あよ現れざるとありらむ」と

いふ句も作るべきやうあれども、あふ現るゝとあらむ」といふ句と同一の意に歸するゆゑに、「あふ現るゝとあらむ」の方を用て、そのすぢのいりちがひ誤ねぢれたる方を用がす。

右の圖表を記憶したる後は、何ゾ焉ゾ何如ニイカデカおといふ詞を豈の所お入れ代へて練習すべし。

第六章。

逆接句順接句の解。

逆接句は、豫期またる情勢に反對せる結果を生ずるときに用るものなり。主者唱へども從者應ぜず、主從の間との作爲おのづから乖戾違背するとき

に用るものあり。一例を引けば、安逸の下に反て艱難を生じ、艱難の地に反て安逸を生ずるときに用るがごとし。順接句は、希望に和順せる結果が生ずるときに用るものあり。主者唱へて從者能く應ずるときに用るものなり。結果の形容の分量が、原因の形容の分量に相應して生ずるときに用るものあり。

逆接句の誤。

- 渡ニ船ヲ呼ベド、舟人直ニ答ヘタリ。
- 関門常ニ閉テザレドモ、通行スル人多シ。
- 志アル書生ハ、タトヒ高等ノ學校ニ入ルヲ得ザルモ、終身高尚ナル學科ヲ學ブ一能ハズ。
- 盡カスレドモ、終ニ成功セ

リ。

正例。

● 渡ニ船ヲ呼ベド、舟人睡リテ答ヘズ。 ● 関門常ニ閉ガザレドモ、通行スル人稀ナリ。 ● 志アル書生ハ、タトヒ高等ノ學校ニ入ルヲ得ズトモ、他ノ手段ヲ以テ學バヌトハナシ。 ● 盡カスレドモ、終ニ成功セズ。

逆接句の複雑なる誤。

● 生理書ニ於テ暴食大酒ノ害アルヲ論述セリト雖、自身ニソノ害ニ遇ヒテ始テソノ理ヲ悟ルモノナリ。

正例。

● 生理書ニ於テ暴食大酒ノ害アルヲ論述セリト雖、自身ニソノ害ニ遇ハザレバ、ソノ理ヲ悟ルヲ能ハズ。 ● 生理書ニ於テ暴食大酒ノ害アルヲ論述セリト雖、自身ニソノ害ニ遇フマデハサホドニ之ヲ感ゼズ。自身ニソノ害ニ遇ヒテ始テソノ理ヲ悟ルモノナリ。

又句勢に應じて形容の分量を加減すべきとあり。

● 外貌ヨリ一見スルモ、ソノ膽略ノ大小ハ知ルヲ得ベカラス。 ● といふ誤句をば、左の如く正すべし。 ● 外貌ヨリ之ヲ見ルノミニテハ、ソノ膽略ノ大小ヲ知ルヲ難シ。 ● 外貌ヨリ一見シテモ、ソノ膽略ノ大小ヲ知ルヲ得ベシ。

逆接句の正誤
二十六 拾遺

順接句の誤。

● 渡ニ船ヲ呼ベバ、舟人睡リテ答ヘズ。 ● 関門常ニ閉ヂザレバ、通行スル人稀ナリ。 ● 志ナキ書生ハ、高等ノ學校ニ入ルヲ得ザレバ、他ノ手段ヲ以テ學バヌハナシ。 ● 盡カスレバ、終ニ成功セス。

正例。

● 渡ニ船ヲ呼ベバ、舟人直ニ答ヘタリ。 ● 関門常ニ閉ヂザレバ、通行スル人多シ。 ● 志ナキ書生ハ、高等ノ學校ニ入ルヲ得ザレバ、終身高尚ナル學科ヲ學ブ一能ハズ。 ● 盡カスレバ、終ニ成功セリ。

練習。

● 往ケバ來タラス。 ● 學ブニ暇ナシト云フモノハ、

暇アレバ勉強セヌ徒ナリ。 ● 打テド鳴リ敵ケド響ク。 ● ● は、逆接の誤。 ● ● は、順接の誤ありとす。

第七章。

原因句、結果句、方便句、目的句の解。

初に原因より説き起して結果およびものをば、原因結果句といふ。今略して原因句と名づく。結果より説き起して原因に溯るものをば、結果原因句といふ。今略して結果句と名づく。先、方便を陳べて後、目的を陳ぶるものをば、方便目的句といふ。今略して方便句と名づく。先、目的を陳べて後、方便を陳ぶるものをば、目的方便句といふ。今略して目的句と名づく。

原因句の誤。

● 予ハ、胃カ張リタルユエニ、飲食シタリ。 ● 予ハ、智カ開ケタルニ因リテ、教ヲ受ケタリ。

正例。

● 予ハ、飲食シタルユエニ、胃カ張リタリ。 ● 予ハ、教ヲ受ケシニ因リテ、智カ開ケタリ。

結果句の誤。

● 飲食シタルハ、胃ノ張リタルユエナリ。 ● 教ヲ受ケシハ、智ノ開ケタルニ因ル。

正例。

● 胃ノ張リタルハ、飲食シタルユエナリ。 ● 胃ノ張リタルハ、是、飲食シタルユエナリ。 ● 智ノ開ケタル

ハ、教ヲ受ケシニ因ル。

方便句の誤。

● 病ヲ治療スルハ、薬ヲ用ムガ爲ナリ。 ● 智識ヲ開クハ、教育ヲ受ケムガ爲ナリ。

正例。

● 薬ヲ用ルハ、病ヲ治療セムガ爲ナリ。 ● 教育ヲ受ケルハ、智識ヲ開カムガ爲ナリ。

目的句の誤。

● 薬ヲ用ムトスルニハ、病ヲ治療スルニアリ。 ● 教育ヲ受ケムトスルニハ、智識ヲ開クニアリ。

正例。

● 病ヲ治療セムトスルニハ、薬ヲ用ルニアリ。 ● 智

識ヲ開カムトスルニハ、教育ヲ受クルニアリ。

法則。

- 一。ユエニニ因リテニ因ルレバナリレバキハラ以テ(因テの意の以テを用るるとき)おどの上には、原因を書くものとす。
 - 二。ニ至ルニ至ラムニ至ルベシト成ルト成ラムおどの上には、結果を書くものとす。
 - 三。爲ナリ要ス欲ストスルニハ要スルニハ欲スルニハなどの上には、目的を書くものとす。
 - 四。ニアリの上には、方便を書くものとす。
- 世間おは、爲ナリを故ナリの意不用たるものもあり。ある辭書にさへユエにも通ふととして載せたり。

れど、おひく開けゆく世に伴ひて、文章と思想とを精密に進めむとおは、區分するを宜しとす。

原因句の誤。その二。

- ① 教師、教授ヲ爲スニ注意シテ、兒童ニ歡樂ヲ與ヘ兒童ヲシテ倦マシメザルキハ、兒童ハ、教授ヲ受クルニ無上ノ樂ト思ヒ、喜ビテ通學スルニ至レバナリ。
- ② 此ラノ學問ヲ以テ事業ニ應用スルキハ、大ニ社會ヲ利シ、且ハ學問ト事業トガ親密ニ關係スル所以ナリ。
- ③ 人モシ腸胃ニ循ヒタル血液ノ分量ヲ減ズルキハ、ソレニ因リテ消化ノ活動ヲ妨ゲ乳糜ヲ造クル能ハザレバナリ。
- ④ 教師、案内ナクシテ授業ノ時間ニ昇校セザルニアルキハ、數多ノ生徒ハ、空シク手

ヲ束テテ一日ノ光陰ヲ費スガ如キハ、實ニ損害ノ大ナルモノナリ。 ⑦ 人見識博キキハ、百般ノ事物、皆我が眼中ニアリ。是ノ故ニ、此ノ事ハ此ノ理ヨリ出テ、コノ事ヲ處スルニハ、コノ理ヲ用ルベシト能ク判決スルヲ以テナリ。この五題は、議論上の原因句の誤とす。

正例。 その二。

① 教師、教授ヲ爲スニ注意シテ、兒童ニ歡樂ヲ與ヘ兒童ヲシテ倦マシメザルキハ、兒童ハ、教授ヲ受クルトテ無上ノ樂ト思ヒ、喜ビテ通學スルニ至ルベシ。 ② 此ラノ學問ヲ以テ事業ニ應用スルキハ、大ニ社會ヲ利シ、且ハ學問ト事業トガ親密ニ關係スルニ至ラ

ム。且の字、今時文の用法に背けり。中古文の用法に背けり。

分量ヲ減ズルキハ、ソレニ因リテ消化ノ活動ヲ妨ゲ乳糜ヲ造クルト能ハザルベシ。 ③ 教師、案内ナクシテ授業ノ時間ニ昇校セザルトアルキハ、數多ノ生徒ハ、空シク手ヲ束テテ一日ノ光陰ヲ費スニ至ラム。此實ニ損害ノ大ナルモノナリ。 ④ 人見識博キキハ、百般ノ事物、皆我が眼中ニアリ。是ノ故ニ、此ノ事ハ此ノ理ヨリ出テタルニ因リ、コノ事ヲ處スルニハ、コノ理ヲ用ルベシト能ク判決セザルハナシ。

結果句の誤。 その二。

① 人ノ惰弱ナルハ、多クハ貧窮ナレバナリ。 ② 教訓ノ至ラザルハ、生徒ノ正シカラザルニ基ス。 ③ 世間

ニ、虛弱ナルカ爲ニ、業ヲ遂ゲ功ヲ成サヌモノアルハ、大抵効少ノ時ヨリ躰操ヲ好マザルニ因ルナリ。⑤鳥ノ羽ウチテ碧空ヲ凌グハ、兩翼アルカ爲ナリ。⑥凡、事業ノ順序ヲ追ヒテ着々トメソノ成功ヲ期スル一ヲ得ルモノハ、ソノ初、計畫ヲ爲シ方針ヲ定ムル一ノ宜シキニアリ。

③は、資料上の誤なり。④は、爲といふ詞の用方を誤るゝれば、これを形質上の誤とす。それ資料上の誤とは、結果の場所ハ結果の資料を置かず。原因の場所に原因の資料を具へずして、誤と成れるごときものをいふ。形質上の誤とは、結果といひ原因といひ各、その所を得といへども、原因の下に二因

ルを用ずして爲ナリニアリを附くる類をいふ。⑤の二。世間ニ、虛弱ナルカ爲ニ、業ヲ遂ゲ功ヲ爲サヌモノアルハ、大抵効少ノ時ヨリ躰操ヲ好マザルカユエニ、躰ノ虛弱トナルニ因ルナリ。⑥の三。世人効少ノ時ヨリ躰操ヲ好マザルユエニ、躰虛弱トナリテ業ヲ遂ゲ功ヲ成ス一能ハザルニ至ルナリ。この二例は、③をば拙と添削したるものにて、おほその過失を免るゝと能はず。④ノ二は、結果が兩方にあるゆゑおふ兩果の誤と名づく。五卷の兩頭句の誤に入るべきおれど、ついでに此處にて論す。又⑤ノ三は、論理の失とす。躰の虛弱は、この原因のみに限りがたければあり。

正例。 その二。

③ 人ノ貧窮ナルハ、多クハ惰弱ナレバナリ。 ④ 生徒ノ正シカラザルハ、教訓ノ至ラザルニ基ス。 ⑤ 世間ニ虚弱ニシテ業ヲ遂ゲ功ヲ成サヌモノアルハ、大抵幼少ノ時ヨリ躰操運動ナドヲ好マザルニ因ルナリ。 ⑥ 鳥ノ羽ウチテ碧空ヲ凌グハ、兩翼アルニ因ルナリ。 ⑦ 凡、事業ノ順序ヲ追ヒテ着々トメツノ成功ヲ期スルヲ得ルモノハ、ソノ初、計畫ヲ爲シ方針ヲ定ムルノ宜シキニ因ルナリ。 ⑧ 鳥ノ爲、ナリを削らむして方便句ハ正さば、鳥ノ羽ウチテ碧空ヲ凌グハ、或ハ矢丸ヲ避ケム爲ナリ。ともせむか。

方便句の誤。 その二。

① 閑暇ノ時ニ歩行シテ自由ニ腕ト胸トヲ動カスハ、運動ヲ躰ノ上部ニ達セムトスルニアリ。 ② 校舎ニテ放課ノ時ニ窓ヲ開ク所以ハ、一室内ニ數十人居レバ、躰中ヨリ腐敗セル炭酸ヲ吐キ出ス。多キヲ以テ、新鮮ノ空氣ト交換シテ躰ノ健康ヲ保ツ所以ナリ。 ③ 教育ヲ盛ニスルハ、人民ノ徳性ヲ養ヒ智識ヲ開キテ國家ヲ富強ニシ福祉ヲ増進スルヲ以テナリ。 ④ 行燈、ランプノ室内ヲ照シ瓦斯灯、電氣燈ノ道路ヲ輝スハ、暗キヲ轉ジテ明キニ爲スニアリ。 ⑤ 唱歌ヲ學校ノ科業ニ挿入セシ所以ハ、生徒ノ倦怠ヲ醫シ氣力ヲ起シ鬱悶ヲ散ジ、卑野ノ陋習ヲ轉ジテ高尚優美ノ

氣風ヲ保有セシムル一カ唱歌ノ一大眼目ナリ。

正例。 その二。

● 開暇ノ時ニ歩行シテ自由ニ腕ト胴トヲ動スハ、運動ヲ躰ノ上部ニ達セムトスル爲ナリ。 ● 校舎ニテ放課ノ時ニ窓ヲ開ク所以ハ、一室内ニ數十人居レバ躰中ヨリ腐敗セル炭酸ヲ吐キ出ス一多キヲ以テ、新鮮ノ空氣ト交換シテ躰ノ健康ヲ保タムガ爲ナリ。 ● 教育ヲ盛ニスルハ、人民ノ徳性ヲ養ヒ智識ヲ開キテ國家ヲ富強ニシ福祉ヲ増進セムガ爲ナリ。 ● 行燈・ランプノ室内ヲ照シ瓦斯灯・電氣燈ノ道路ヲ輝カスハ、暗キヲ轉ジテ明キニ爲サムタメナリ。 ● 唱歌ヲ學校ノ科業ニ挿入セシ所以ハ、生徒ノ倦怠ヲ醫シ氣

力ヲ起シ鬱悶ヲ散ジ卑野ノ陋習ヲ轉ジテ高尚優美ノ氣風ヲ保有セシムルガ爲ナリ。

● の二。 開暇ノ時ニ歩行シテ自由ニ腕ト胴トヲ動シ運動ヲ躰ノ上部ニ達セシムルハ、躰ヲ健康ニセムガ爲ナリ。 これは、^{世ニ}観念を増し加へて正せるあれば、適當なる添削方にあらず。

● の三。 開暇ノ時ニ歩行シテ自由ニ運動ヲ爲スハ、躰ノ健全ヲ保タムガ爲ナリ。 これは、^{世ニ}概念をば一きは、大に爲して意旨を廣むるゆゑ、適當なる添削方にあらず。

目的句の誤。 その二。

● 國史ヲ課スルハ、忠君ノ誠ヲ盡サシメ愛國ノ情ヲ

發セシムルニアリ。④教育ヲ盛ニシ徳性ヲ涵養シ
民智ヲ開達セシムトスルハ民生ヲ富裕ニシ風俗
ヲ淳美ニシテ以テ國家ノ福祉ヲ増進セシムルニア
リ。

③④は資料上の誤あり。これは、方便の所より方便の
資料を置かず。目的の所より目的の資料を具へず去
て誤るものあり。又目的句にて形質上の誤とは、方
便といひ目的といひ各、その資料は、能く位置を得
といへども、方便の下よりニアリを用はずして爲ナリ
を用る類なり。

正例。その二。

③忠君ノ誠ヲ盡サシメ愛國ノ情ヲ發セシムトス
ルニハ、國史ヲ課スルニアリ。④民生ヲ富裕ニシ風
俗ヲ淳美ニシテ以テ邦國ノ福祉ヲ増進セシムト
スルニハ、教育ヲ盛ニシ徳性ヲ涵養シ民智ヲ開達セ
シムルニアリ。

原因結果に附きたる種々の誤。

因果あるものを區別せずして一律に書き下すと
甚非あり。①にては、地勢カ山間ニ僻在スといふガ
原因に成るべきあり。②は推して知るべし。

③如何セム、地勢山間ニ僻在シ、他境ニ出ヅルニハ、峻
路險阪ヲ上下セザルヲ得ザルヲ。④人見識アル
片ハ、コノ事ハカノ理ヨリ出デ、コノ事ハカノ理ヲ以
テ處スベシト判決セザルハナシ。

正例

⑧ 如何セム、地勢山間ニ僻在スルヲ以テ、他境ニ出ヅルニハ、峻路險阪ヲ上下セザルヲ得ザルヲ。 ⑨ 人見識アルキハ、コノ事ハカノ理ヨリ出デタルユエ、コノ事ハカノ理ヲ以テ處スベシト判決セザルハナシ。

○ 原因が結果を生ずる價をくして、原因の地位を填むるとあり。單行の句には、その是非判別し易きゆゑ、この疵稀れど、對句には、この疵の目立たざるより往々に爲出づるとあり。注意すべきとなり。

⑩ 池中水アリテ落葉浮セ、樹木根全クシテ枝葉榮ユ。池中水あるとは、落葉の浮ぶといふ因に成らざるべし。

○ 句の係らざるより原因結果の形狀の明あらざるものあり。議論上の原因句にて例を擧ぐれば、⑪の如く、議論上の結果句ふも例を擧ぐれば、⑫の如し。

⑪ 之ヲ養フニ術至ラス、美質アリト雖、有用ノ器ト成ラザルナリ。(係辭おきゆゑ不應の誤とも名づゑべし)

⑫ 道鏡ガ皇位ヲ窺フヤ、清麻呂ノ愛國心アリテ之ヲ拒グ。一ヲ得タリ。元兵ガ皇國ヲ襲フヤ、時宗ノ愛國心アリテ之ヲ攘フ。一ヲ得タリ。

正例。

⑬ 之ヲ養フニ術至ラザルキハ、美質アリト雖、有用ノ器ト成ラザルナリ。 ⑭ 道鏡ガ皇位ヲ窺ヒテ遂ゲザ

リシハ、清麻呂ノ愛國心アリテ之ヲ拒ゲバナリ。元兵ガ皇國ヲ襲ヒテ敗レシハ、時宗ノ愛國心アリテ之ヲ攘ヘバナリ。

練習。

⑤ 傘ヲサスユエニ、雨ガ降ル。 ⑥ 某氏ハ、陶器ノ製造ニ日夜、思ヲ焦シシヨリ、遂ニ今日ノ如ク國産ノ聲價ヲ落サザルニ因リシナルベシ。 ⑦ 水ヲ飲ミタルハ、咽ノ濁ガ止ルユエナリ。 ⑧ 教場ノ窓ヲ開クハ、新シキ空氣ヲ通スニアリ。 ⑨ 尺蠖ノ身ヲ屈ムルハ、伸ビムヲ求ムルニアリ。 ⑩ 人ノ艱苦ヲ凌グハ、後日ノ安樂ヲ願フニアリ。 ⑪ 水ヲ飲マムトスルハ、咽ノ濁ヲ止ムルニアリ。 ⑫ 教育ヲ盛ニスルニハ、務テ國家

ノ利益ヲ起スニアリ。

● ⑬ は、原因句の誤。 ● ⑭ は、結果句の誤。 ● ⑮ は、方便句の誤。 ● ⑯ は、目的句の誤あり。又 ● ⑰ をば、目的句の誤と看做して正すも可なり。

文章添削方針卷四 終る

明治三十年九月廿七日印刷
明治三十年九月三十日發行



著述者

阿保友一



發行者

東京市本郷區淺草町七十五番地
會社 富山 房

代表者

坂本嘉治 馬

印刷者

東京市京橋區木挽町九丁目六番地
青山藤四郎

印刷所

全所
青山活版所

發兌元

會社 富山

房

(電話本局一〇六二番)

108
52

文章添削方針 附	第一編	定價	金廿八錢
	第二編	定價	金廿八錢
	第三編	定價	金廿八錢
	第四編	定價	金廿八錢

